

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：経営法学部

(Plan) 事業 目標	<p>1 アドミッション・ポリシーに即した学生の募集を図る。</p> <p>2 ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーに基づく単位認定及び卒業認定を適正に実施をする。</p> <p>3 履修モデルに沿った履修を促進する。</p> <p>4 グローバル人材養成プログラムの着実な実施による学生の多様な能力の開発を促進する。</p> <p>5-1 「就職に強い学園」として、高い評価を受けている現状を継続していくために高水準の就職率を維持する。</p> <p style="padding-left: 20px;">- 2 留学生に対する日本国内での就職活動を支援していく。</p> <p>6 高大接続目的での特定資格・検定合格者の特待制度実施に向けた体制を準備する。</p>
事業 計画	<p>1-1 各入試区分において志願者の増加を目指して効果的な入試広報活動を実施する。</p> <p style="padding-left: 20px;">- 2 特待基準（特に学力特待）を公開して一定層の学生が安心して受験できる体制を確立する。</p> <p>2-1 カリキュラムポリシーに則って、単位認定、卒業認定および修了認定について各基準を厳正に適用する。</p> <p style="padding-left: 20px;">- 2 3つのポリシーの評価検討ワーキングを組織して、ポリシーの具現化及び達成度判定に有用な形式を整える。</p> <p>3-1 現行の履修モデルに沿った履修を促進すると同時に、部分的には改定して修了者の増加を目指す。（中期計画）</p> <p>4-1 2年生に対するグローバル人材養成プログラム（特講・キャリアプラ）の内容を具体化し、実施する。</p> <p>5-1 各学年に対するキャリアプランニングのプログラムを着実に実施する。</p> <p style="padding-left: 20px;">- 2 留学生対象の就職活動支援プログラムを実施する。</p> <p>6-1 特定資格・検定合格者の特待制度に対応した本学独自の教育内容（プログラム）を構築し、特別授業を実施できる環境（例：エクステンション・ルーム）整備する。これを高校に周知して、本学との接続の有用性を示す。</p>
(Do) 実施	<p>1-1 定員確保に向け入試区分に応じた入試広報および入試を実施した</p> <p style="padding-left: 20px;">- 2 取得資格（検定）型全額特待制度を新設して、リーフレットも作成中である。</p> <p>2-1 成績評価のガイドラインを看護学部と協議して策定している。</p> <p style="padding-left: 20px;">- 2 3つのポリシーを確定し、それに応じたカリキュラム編成の組み換えを行う。</p> <p>3-1 新たに、特別人材養成プログラムとして、グローバル人材と簿記・税理士の養成プログラムを設置した。履修モデルの部分的改定については、検討の末、現状のプログラム内容を継続することとなった。</p> <p>4-1 グローバル人材養成プログラムの内容を充実させるため、一部科目の増設を行った。</p> <p>5-1 キャリプランニングを着実に実施。</p>

	- 2 留学生に対する就職支援を行った。				
	6-1 特定資格・検定合格者の特待制度に応じた本学独自の教育内容を構築し、特別授業を実施する環境を整えた。				
(Check) 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載		点検結果		
	1-1 各区分の入学者数とアドミッションポリシーとの整合性 (入試区分の入学者数、学校案内、募集要項)		1-1 募集要項、学校案内		
	- 2 高校の教員や受験生への明確な特待基準の周知状況(教授会資料=募集要項・ホームページ)		1-2 毎月の教授会資料(高校訪問、進学相談会)、ホームページ		
	2-1 単位認定や卒業認定の状況(教授会資料=卒業判定会議等、委員会資料・各科目の単位認定状況)		2-1 2月末の卒業判定会議、教授会の学務委員会の資料		
	- 2 ポリシーの見直し状況(教授会資料=卒業判定会議資料))		- 2 教学マネジメント、カリキュラム委員会の教授会資料		
	3-1 履修モデル改定状況と履修者の状況(教授会資料=卒業判定会議資料)		3-1 2月の教授会資料、3月の卒業関係資料		
	4-1 2年生の授業内容(教授会資料=委員会報告))		4-1 3月のグローバル人材養成推進委員会の教授会資料		
	5-1 キャリアプランニング、インターンシップの実施状況(教授会資料=キャリア支援センター・学務の委員会報告)		5-1 毎月の教授会資料(キャリア支援センター)		
- 2 留学生の国内就職状況(教授会資料=キャリア支援センターの報告))		- 2 毎月の教授会資料(キャリア支援センター)			
6-1 特別授業の実施の環境整備状況、教育プログラムの策定・周知状況(教授会資料=高大連携委員会の報告等))		6-1 毎月の高大連携委員会の教授会資料、2月及び3月カリキュラム検討委員会およびグローバル推進委員会の資料			
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3			○	
	事業目標 4		○		
	事業目標 5			○	
	事業目標 6		○		

<p>評 価 理 由</p>	<p>事業目標 1：一般入試・共通テストの結果如何では定数確保が危うい状況である。</p> <p>事業目標 2：ポリシーの見直し・単位認定の適正化の環境は整備した。</p> <p>事業目標 3：初期の目標と異なり、履修モデルと特別人材養成プログラムを区分する方向へ変更した。</p> <p>事業目標 4：グローバル人材養成プログラムでは科目の増設と内容の補充を行った。</p> <p>事業目標 5：例年の実績に若干足りない</p> <p>事業目標 6：特別人材養成プログラムについては全額特待制度を設け、広報活動に努めている。</p>
<p>(Action) 改 善</p>	<p>事業目標 1：定員確保を至上命題として入試・広報活動を展開する。</p> <p>事業目標 2：見直したポリシーに照らして適切なカリキュラムを構築し運営する。</p> <p>事業目標 3：履修モデルに履修指導を維持し、特別人材の養成プログラムの実績を示す。</p> <p>事業目標 4：グローバル人材養成プログラムの完成と中長期海外実習の実績を示す。</p> <p>事業目標 5：高い就職率を維持確保する</p> <p>事業目標 6：取得資格（検定）型特待を周知して、入試広報活動に役立てる。</p>

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：看護学部

(Plan) 事業 目標	<p>1. 看護学部の教育の質を保証する。</p> <p>2. 入学志願者の増加を図る。</p> <p>3. 国家試験合格率 100%を目指す。</p> <p>4. 教員の教育力の向上及び研究活動を推進する。</p> <p>5. 海外協定校等との教員間及び学生間交流を推進する。</p>
事業 計画	<p>1-1 3つの方針（AP、CP、DP）、教育課程に基づいた教育の点検・評価を行う。</p> <p style="padding-left: 20px;">- 2 専門領域毎の教員と非常勤実習指導者の充実を図る。</p> <p style="padding-left: 20px;">- 3 学生の学力向上にむけた方策を協議する。</p> <hr/> <p>2-1 2022年度志願者の動向を分析する。</p> <p style="padding-left: 20px;">- 2 志願者増加に向けて対策を協議する。</p> <hr/> <p>3-1 国試対策プログラムの実施と評価を共有する</p> <hr/> <p>4-1 教員の教育力の向上のためにFD委員会・実習委員会研修会活動への参加を促す。</p> <p style="padding-left: 20px;">- 2 教員の研究力の向上のために研究推進委員会企画の研修会等への参加を促す。</p> <hr/> <p>5-1 海外協定校との共同研究や交流を推進する。</p> <p style="padding-left: 20px;">- 2 「国際医療論」への本学留学生の参加等によって、学生間の学際的交流を深める。</p>
(Do) 実施	<p>1-1 カリキュラム検討委員会が中心になり3つの方針（AP、CP、DP）の見直しを行った。学務および実習委員会が中心となり、教育の点検・評価を行った。</p> <p style="padding-left: 20px;">- 2 地域在宅看護学領域教授および母性看護学領域助手を採用。基礎看護学（講師、助手）、成人看護学（助手）、精神看護学（講師）の各領域については公募を継続する。実習担当非常勤講師7名の協力を得ることができた。</p> <p style="padding-left: 20px;">- 3 各年次のアドバイザーが中心となり、学期ごとの試験終了後に学修指導を行った。</p> <hr/> <p>2-1 2022年度入試志願者は、公募制推薦（定員40名）58名（倍率1.45倍）で、昨年と同数であった。一般1期・2期（定員25名）は49名（倍率1.96倍）で昨年より10名減、共通テスト利用前期・後期（定員15名）は67名（倍率4.47倍）で昨年より6名増であった。社会人特別選抜に4名の志願者があった（昨年0）。</p> <p style="padding-left: 20px;">- 2 志願者増に向けて、通常の3回/年のオープンキャンパス、高校訪問、各種進学ガイダンス等に加えて、高大連携事業を昨年度より1校増やし3校（青森中央高校、大湊高校、木造高校（新））に実施した。</p>

	3-1 4年次学生に対して国家試験対策委員会が計画的に対策を実施し、教授会、学科会議において内容を共有した。	
	4-1 FD委員会研修会（全学FD3回：8月5日、10月5日、11月6日、SD研修会（9月14日）、看護学部FD1回：7月6日）、実習委員会研修会（2回：8月4日、12月14日）へ教員の参加を促した。今後予定のSD委員会研修会（3月1日）への参加を促す。 -2 研究推進委員会企画の研修会（3回：7月26日、9月27日、1月31日）へ教員の参加を促した。	
	5-1 11月3日、タイ国チュラロンコン大学看護学とサイアム大学看護学部との協定を更新した。また、新たに、ベトナム国ゲン・タット・タイン大学とのMOU締結に看護学部も参加することとなった。サイアム大学共同研究WGを12月までに7回実施した。 -2 1年次前学期「国際医療論」（8コマ）へ本学留学生の参加（7名）によって、学生間の学際的交流を深めた。	
(Check)	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
点 検	1-1 カリキュラムの実施状況（学事暦、時間割、シラバス） -2 教員公募等の実施状況（学科会議記録、教員・非常勤実習指導教員の充足状況） -3 学生の学力に関する各種結果の分析状況（GPAの結果、プレイスメントテスト結果、国試模試結果等、学科会議記録）	1-1 令和4年度学事暦、令和4年度前・後学期時間割、シラバス -2 JERC-INによる教員公募を実施、令和4年度実習指導体制（実習委員会作成） -3 各学生のGPAについては各アドバイザー記録、プレイスメントテスト結果については学習支援センター記録。国試模試結果は国家試験対策委員会記録。
	2-1 入試結果の分析状況（学科会議記録、入試広報委員会記録） -2 志願者に関する分析状況（学科会議記録、入試広報委員会記録）	2-1 入試広報委員会記録、学科会議記録（3月8日） -2 入試広報委員会記録、学科会議記録（3月8日）
	3-1 国試対策の策定と結果の状況（学科会議記録、国家試験結果）	3-1 国家試験対策委員会記録、教授会記録（2023年4月） 国家試験結果合格率（看護師 94%、保健師 100%）
	4-1 FD活動への教員の参加状況（学科会議記録、FD委員会記録） -2 研究推進委員会活動への教員の参加状況（学科会議記録、研究推進委員会記録）	4-1 FD活動についての教授会記録。FD委員会記録（） -2 研究推進委員会記録
	5-1 海外協定校（サイアム大学）の共同研究進捗状況（サイアム大学共同研究WG記録） -2 本学留学生参加の授業実施状況（「国際医療論（1年次）」の授業計画と実施報告）	5-1 サイアム大学共同研究WG議事録（7回） -2 「国際医療論（1年次）」の授業計画と実施のまとめ（研究支援・地域連携課で保管）

評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1			○	
	事業目標 2		○		
	事業目標 3			○	
	事業目標 4		○		
	事業目標 5		○		
評 価 理 由	事業目標 1：カリキュラムは確実に実施できたが、公募により十分な教員確保ができなかった。 事業目標 3：国試対策は十分に行ってきたが、看護師国家試験合格者は 94%であった（全国平均 90.8%うち新卒合格率 95.5%）。				
(Action) 改善策	事業目標 1：教員公募を継続していく。 事業目標 3：3月の国家試験の結果に対する分析・対策の検討は、来年度5月の学科会議で行うこととする。				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：図書館情報センター

(Plan) 事業 目標	1. 長期的視点から必要図書の検討と充実を図る 2. 教員・学生双方が満足する図書の充実を図る 3. 変化するニーズに対応した図書館業務を推進する	
事業 計画	1-1 雑誌価格高騰状況を踏まえ、購入雑誌や方法の検討を行う。 - 2 紙媒体以外の書籍導入・活用を図る 2-1 教員と学生協働による図書充実の企画を実施する - 2 留学生対応図書の充実を図る 3-1 利用者の非来館対応を含めたサービスを検討する	
(Do) 実施	1-1 新任教員に雑誌の購読希望調査を実施し、タイトル見直しを行った。購入方法を冊子から論文単位で購入する方法に見直した。 2-1 それぞれの学部、短大、専門学校においての必要図書を検討購入した（図書 657 冊・映像資料 10 点）。学生参加型イベントを 2 つ実施、選書ツアーは 8 名参加 62 冊の図書が選ばれ、図書紹介 POP とともに展示した。ビブリオバトルは紹介者 5 名を集め実施、紹介図書を結果とともに展示した。 - 2 留学生母国語図書（ベトナム語・タイ語・中国語・韓国語）を 38 冊購入した。 3-1 洋雑誌の購入方法見直しにより、オンラインで洋雑誌を閲覧できるようになった。その他の非来館対応については継続検討中。	
(Check) 点検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 必要図書購入検討の実施状況（洋雑誌購入方法検討記録、選定図書検討記録）	1-1 令和 4 年度第 2 回図書館情報センター会議 議事要録 令和 4 年度第 4 回図書館情報センター会議 議事要録
	2-1 教員と学生協働の実施記録（ビブリオバトル、選書ツアー、読書マラソンの記録） - 2 留学生用図書購入の実施状況（留学生用図書購入経緯の記録）	2-1 令和 4 年度第 1 回図書館情報センター会議 議事要録 R4 教員選定図書.xlsx R4 学生参加型イベント（選書ツアー・ビブリオバトル）.xlsx - 2 令和 4 年度第 4 回図書館情報センター会議議題+別紙①② R4 留学生母国語図書.xlsx
	3-1 非来館対応を含めたサービスの検討状況（電子書籍導入の検討記録）	3-1 令和 4 年度第 4 回図書館情報センター会議 議事要録 令和 4 年度第 8 回図書館情報センター会議 議事要録

評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1	○			
	事業目標 2		○		
	事業目標 3			○電子書籍の導入検討	
評 価 理 由	事業目標 1：価格高騰で毎年予算を圧迫していた洋雑誌の購入タイトルや購入方法を見直し、非来館対応にもつなげることが出来た。 事業目標 3：電子書籍についての検討は行ったが、導入には至らなかった。				
(Action) 改 善	事業目標 3：本学の実態を踏まえるとどのようなやり方が適切なのか、その方向性について、新 DB 導入も含めて検討する。				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：国際交流センター

(Plan) 事業 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 留学生の効果的な募集活動の展開 2. 学園内の国際交流活動の推進を通じて異文化社会に対応できる人材を育成する 3. 卒業生のネットワーク化を行う 4. 地域のグローバル化に貢献するために地域の各分野と連携を計る 5. コロナ禍での国際交流事業方針の策定
事業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. 海外協定校との関係強化及び新規協定校の開拓により、国内外の留学生の獲得に努める。 <ul style="list-style-type: none"> -2. 入学前の留学生に対する教育を強化する。 -3. 要支援留学生の支援体制を整え、チューターの活用を強化する。また、日本語 e-learning システムの構築を検討する。 -4. キャリア支援センターが実施する就職支援プログラムに協力する。 2-1. 海外の協定校との交換留学生制度を活用し、短期受入プログラムを促進する。 <ul style="list-style-type: none"> -2. 協定校との人的交流を促進し、教員の短期受け入れについて検討する。また、コロナの状況を鑑みオンライン等での交流を継続する。 さらに、海外の大学等との共同キャンパスの設置及び相互利用、教員間の共同研究を促す。 -3. 学内外の行事等における留学生と日本人学生(チューターを中心とする)の交流を促進し、文化や習慣の理解を深める。 -4. 海外留学希望の日本人学生に語学準備講座(英語・中国語・タイ語・ベトナム語・韓国語)や手続き等の支援を行う。 -5. 学内留学の推進、本学の教職員及び卒業生による外国文化講座の実施。 -6. 学生のニーズに合った短期派遣プログラムおよびリモート留学プログラムを開拓する。 3-1. 外国人卒業生の進路状況を把握し、情報を共有しながら連携を継続する。 <ul style="list-style-type: none"> -2. 海外同窓会未設立の国での新規設立と総会等の開催を行う。 4. 地域社会に貢献するために、行政や教育機関及び民間団体との連携をより一層強化していく。 5. オンラインツールを活用した国際交流および共同研究を推進する
(Do) 実 施	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. コロナの影響が残りつつも海外協定校と緊密な協力関係を保ち、常に情報共有し学生募集を行うことができた。また、国内外の新規協定校についても高等教育機関3校、中等教育機関1校を開拓することができた。 1-2. 入学前教育の効果をより高めるため、事前面談の実施やプレイスメントテスト実施の前倒しを試行するなど工夫し一定の効果が得られた。 <ul style="list-style-type: none"> -3. 要支援留学生の早期発見に努め、支援には留学生チューターも活用している。 -4. キャリア支援センターが実施する就職支援プログラムの周知等に協力した。

	<p>2-1. 海外の協定締結校との交換留学生制度について、コロナ禍の中でも一部再開できたプログラムについては双方向の交換は実現できた。短期受入プログラムについては、次年度の本格的な再開に向けて準備を行っている。</p> <p>—2. 協定締結校との人的交流の再開、促進、およびオンライン交流を継続して行った。</p> <p>—3. 学内外の行事等がコロナの影響により、中止になることが多かったが、今年度は少しずつ活動が再開できるようになった。特に今年度は、短大生を含めた新たな取り組みを実施した。</p> <p>—4. 海外留学プログラム参加希望の日本人学生に対する語学準備講座(英語・中国語・タイ語・ベトナム語・韓国語)実施いた。手続き等の支援については、コロナ禍で新たに発生した様々な手続きについて対応して支援を行った。</p> <p>—5. 各設置校学生との交流活動を実施し、学内留学を推進した。地域社会活動委員会と協力して、異文化理解講座を実施しオンラインを含めて多くの受講者があった。</p> <p>—6. 海外協定校とのオンラインツールを利用した異文化交流プログラムを実施した。</p>	
	<p>3-1. 外国人卒業生の進路状況を可能な限り把握し、キャリア支援センターと連携し情報を共有している。</p> <p>—2. コロナの影響で新規設立が延期となっている国もあるが、ベトナム同窓会の開催および台湾での設立準備など進めることができた。</p>	
	<p>4. 行政や教育機構及び民間団体への働きかけを行い、より一層の連携強化を図った。</p>	
	<p>5. 海外協定校とのオンライン交流を今年度も実施し、オンラインツールを利用した国際交流活動を実施した。</p>	
<p>(Check)</p> <p>点 検</p>	<p>計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載</p> <p>1-1 留学生の状況(入学者数一覧) 海外協定校数</p> <p>—2 入学前教育の実施方法及び内容(実施記録)</p> <p>—3 要支援内容(要支援記録)</p> <p>—4 就職支援プログラム数(実施日程表)</p> <p>2-1 派遣及び受入数(派遣・受入数一覧)</p> <p>—2 協定校との人的交流等の検討状況(検討記録)</p> <p>—3 学内外の留学生と日本人学生の交流内容(交流記録一覧)</p> <p>—4 語学準備講座の開講状況(参加者一覧)</p>	<p>点検結果</p> <p>1-1. 入学者一覧 海外協定校一覧</p> <p>1-2. 実施記録</p> <p>1-3. 要支援記録(プロフィール含む)</p> <p>1-4. 実施日程表</p> <p>2-1. 派遣・受入数一覧</p> <p>2-2. 検討記録</p> <p>2-3. 交流記録一覧</p> <p>2-4. 参加者一覧</p>

	—5 学内留学の進捗状況（記録）	2-5. 進捗記録			
	—6 短期派遣プログラム開拓の進捗状況（記録）	2-6. 進捗記録			
	3-1 卒業生の進路実績（実績一覧）	3-1. 実績一覧			
	—2 海外同窓会の新規設立と総会の進捗状況（設立・開催記録）	3-2. 設立・開催記録			
	4. 行政や教育機構及び民間団体との連携などの進捗状況（記録一覧）	4. 記録一覧			
	5. オンラインツールを活用した交流内容（交流記録一覧）	5. 交流記録一覧			
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1		○		
	事業目標2		○		
	事業目標3		○		
	事業目標4		○		
	事業目標5		○		
評価理由	コロナ禍の中で、出入国の制限をはじめ多くの事業についての制限のあった中で、可能な中での目標達成はできた。				
(Action) 改善	今後、出入国の制限解除をはじめコロナ禍での様々な制限が機序され、多くの事業の再開されていくこととなる。コロナ禍ではじめたオンラインの有効活用をはじめ、業務の効率化を図りながら、留学生だけではなく学生全体の満足度を上げるための取組をしていく。				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：入試広報センター

(Plan) 事業 目 標	<p>1. 学園各設置校において、入学定員に沿った志願者数増加に向け広報活動を展開する。 特に、青森田中学園中期経営計画5-1. ②に基づき、ハイブリッド型の広報活動を積極的に展開する。</p> <p>2. 令和5年度大学入学者選抜実施要項に基づき、学院大学・短期大学の入学者選抜を実施する。</p> <p>3. 青森田中学園中期経営計画5-1. ⑤に基づき、専門職の“なり手”の早期創出に繋がる体制作りに着手する。</p> <p>4. 令和5年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項に基づき、運営体制の構築を行い、試験を実施する。</p> <p>5. 青森田中学園中期経営計画5-2. に基づき、高大連携委員会と連携して情報収集、各種制度のPRを行う。</p>
事業 計 画	<p>1-1 志願者数の増加（前年度比）を目指す。</p> <p>-2 オープンキャンパス（OC）、各種相談会、入試対策講座等については、対面とオンラインの2つを使い分け、参加者のニーズに合わせて開催する。</p> <p>-3 (1)SNSによる情報発信とDSP広告の掲出を、各設置校の状況に合わせ実施する。(2)HP上に受験情報を集約したページを制作し、情報の一元化と効果的な情報発信に努める。(3)WEB出願システムの更新を行い、実施体制を整える。</p> <p>2-1 学院大学・短期大学における一般選抜入学試験問題について、作問と試験問題のチェックを行う。</p> <p>-2 社会人・留学生・障がいのある学生等、多様な入学生の受け入れに向けて、事務局関連部署と連携し、必要な体制を造る。</p> <p>3-1 事務局関連部署と意見交換し、協力体制をどのように構築していくか、具体的な企画に関するアイデア等を共有する。</p> <p>4-1 学院大学と短期大学教職員による共同実施体制を10月末日までに確定させる。また、オンラインを活用した説明会を開催し、担当者の理解を深めた上で試験を実施する。</p> <p>5-1 高大連携委員会において検討された内容を入試広報センターおよび入試広報委員会で共有した上で、高校側に広報する。</p>
(Do) 実 施	<p>1-1 (年度末に記入予定)</p> <p>-2 予定していた4・5・7・8月のOCは全て対面で実施した（短大と専門学校は1・3月にも実施予定）。相談会は学園祭および県・業者主催のガイダンスは対面で、本学看護学部相談会はオンラインで実施した。社会人向け相談会はハイブリッド実施で準備したが、参加者の希望により結果的に対面のみでの実施となった。経営法学部の面接対策講座（10月）は対面で、短期大学の小論文対策講座（9・11月）はオンラインで実施した。</p> <p>-3 (1)LINEによる不定期での情報発信を行った。DSP広告は学院大と短期大学で5～6月、7～8月に掲出した。今後、短期大学のみで2～3月に掲出を行う予定である。(2)（「受験生サイト」として制作を進めており、短期大学先行で2月上旬までに公開予定、学院大は年度内に公開予定である）(3)システム更新を適宜行った。</p>

	2-1 (2/4、3/4の試験実施に向けて、現在作業を進めている) -2 学務課、国際交流課、学習支援課と連携し、必要な体制を整備。	
	3-1 (短期大学において3/25に小中学生向けの職業体験イベントを実施する予定である)	
	4-1 要配慮受験者の増加に伴い、実施体制初案は10月末日までに設定したものの、最終確定は12月上旬となった。説明会は、予定通り第1回目をTeams上で実施した	
	5-1 入試広報センター、入試広報委員会と情報共有し、広報活動を行った	
(Check)	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
点 検	1-1 各設置校の志願者数の状況。(各設置校の入学試験結果一覧) -2 OC、相談会、講座等の実施状況の状況。(OC、相談会、講座等の実施結果一覧、参加者アンケート) -3 (1)SNS、DSPの効果の状況。(SNSは登録者数、DSPはクリック率) (2)HPに受験生特設サイトは制作できたか、利用率の状況(特設サイトアクセス数) (3)WEB出願システムの利用状況。(出願者からの問い合わせ数、内容等)	1-1 『令和5年度入学試験結果一覧(経営法・看護・短大・専門学校)』 -2 【OC】『(経営法・看護・短大)令和4年度オープンキャンパス実施状況』、『(専門学校)オープンキャンパス報告(回覧文書)』 【相談会】『(学院大・短大)令和4年度各種進学ガイダンス・相談会等一覧』 【各種講座】『(経営法)令和4年度面接対策講座(10/9実施)実施状況および参加者アンケート集計結果』、『(短大)第1回/第2回小論文対策講座(9/8・11/8実施)実施状況および参加者アンケート集計結果』 -3 (1)【SNS登録者数】[学院大]LINE 900(うち有効数306)、[短大]LINE 682(うち有効数211)[文化]LINE 184(うち有効数60) ※1/23現在 【DSPクリック率】[学院大]第1回0.22%、第2回0.40%、[短大]第1回0.30%、第2回0.36%(第1回:5/7~6/30、第2回:7/3~8/2、短大のみ第3回2月中旬~実施予定) (2)短大が2023年2月上旬までに開設予定、学院大は年度末に開設予定 (3)留学生選抜と専門学校および大学院の入試を除く全ての試験区分でシステムを導入。問合せ件数は約20件。問合せ内容は住所登録誤り、試験区分登録誤り、エントリー登録(Forms)とWEB出願の誤認によるもの、メールが届かない、その他提出書類の確認など。
	2-1 作問の状況。(作問担当者会議資料、受験者からの質問(試験当日)の有無等)	2-1 『令和5年度学院大・短大入学試験 入試問題作成担当者会議(7/28配付資料)』(状況については2/4、3/4に試験実施のため、今後記入)

	<p>－ 2 学内関連部署と情報・課題の共有の状況。(打合せ資料)</p>	<p>－ 2 【社会人】『(経営法・看護・短大) 第 5 回委員会議事要録』、『(短大) 学務委員会との連携により、「学び直しのススメ」リーフレット』を青森市内に配布。</p> <p>【留学生】12/8 学務課、国際交流課、入試広報委員による打合せ実施『第 8 回経営法学部入試広報委員会資料』</p> <p>【障がいのある学生】OC 時の相談窓口を開設し、相談内容等情報を共有(記録としては『8/10 学習支援課からの連絡メール添付資料等』)</p>			
	<p>3－ 1 関連部署と情報・アイデアの共有の状況。(打合せ資料)</p>	<p>3－ 1 『(短大) 入試広報委員会第 6～8 回議事要録』</p>			
	<p>4－ 1 10 月末日までに確定した実施体制の状況。説明会の開催および当日の実施状況。(担当者組織一覧、学内担当者マニュアル、振り返りアンケート)</p>	<p>4－ 1 『(学院大・短大) 部局長会議資料(10 月部局長会議)』、『令和 5 年度大学入学共通テスト試験実施補助資料』。説明会は全ての担当者が参加(対面、オンライン、オンデマンド対応。オンデマンド参加者には出席確認ワークを実施。全て令和 5 年度大学入学共通テスト担当者 Teams 上に記録あり)</p>			
	<p>5－ 1 入試広報センターおよび入試広報委員会との情報共有の状況。広報活動における状況。(入試広報委員会議事要録、高校訪問記録等)</p>	<p>5－ 1 『(経営法) 入試広報委員会第 3・4・5・6・9 回議事要録』、『(看護) 入試広報委員会第 6 回議事要録』、『(短大) 入試広報委員会第 6 回議事要録』、(学院大・短大) 高校訪問記録(7・8 月教授会資料)』、『(経営法) 取得資格特待生制度 2023 リーフレット』</p>			
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
	事業目標 4		○		
	事業目標 5		○		
評 価 理 由	事業目標●：				

(Action) 改善	事業目標3：今年度はまず短期大学入試広報委員会による企画として実施し、次年度以降、他設置校との共同開催の可能性を探る。 事業目標4：実施体制（組織）の初案は10月末日の制定は可能だが、要配慮受験者が今後も増加する可能性を考えると、最終的な実施体制が整うのは12月上旬となり、設定時期を見直しする必要があると考える。また、学内担当者調整が難航した場面もあった。全学的な取り組みへの理解を深めることが重要と考える。更に、本学の入学試験実施時期と共通テストの準備期間が重なり、学内説明会の開催が時期的に大変厳しいと言わざるを得ない。説明会の回数および実施時期、方法についての検討が必要と考える。
------------------------------	---

令和4年度 事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：キャリア支援センター

(Plan) 事業 目標	1 高水準の就職率維持。 2 多様化するニーズへのセンター機能向上。				
事業 計画	1 就職率の維持に直結する学内実施の企業説明会、就職懇談会等を各設置校の参画の下で実施し、内容の充実を図る。 1 卒業生に対するキャリア支援情報提供体制を強化する。				
(Do) 実施	1-1 新型コロナ感染症防止対策に努めた上で、「学内企業セミナー」(3/1)、「病院等説明会」(3/16)を実施する予定である。 経営法学部「学内企業セミナー」(短大・専門学校も参加) 詳細は経営法学部キャリア支援委員会 PDCA サイクルシート参照。 看護学部 「病院等説明会」 詳細は看護学部キャリア支援委員会 PDCA サイクルシート参照。 2-1 学園の公式ホームページにおいて、公的機関へのリンク等を中心に、卒業生へのキャリア支援情報を充実させた。				
(Check) 点検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載		点検結果		
	1-1 企業説明会等の実施状況と最終就職率(実施状況、就職率)		1-1 企業就職セミナー、病院等説明会実施(予定)状況		
	2-1 情報提供改善の状況(実施状況)		2-1 学園公式 HP、卒業生アンケートの実施状況		
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
評価 理由	事業目標 1 : 事業目標 2 :				
(Action) 改善	事業目標 1 : 地域企業・団体とのネットワークを強化し、オープンカンパニー、インターンシップ等の体験型プログラムの充実を図る。 事業目標 2 : 起業に関する助言・支援機能についても検討を図る。				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：学習支援センター

(Plan) 事業 目標	<p>1 個々の学生に寄り添った支援を充実させ、退学者を一人でも減らす</p> <p>2 多様な学生に応じた環境の構築と経験機会の創出に努めて、学内外における学生活動を活性化する</p> <p>3 学力の底上げを図るとともに、学生自らが付加価値をつけるためのチャンネルを増やす</p>
事業 計画	<p>1-1 学業および学習機会支援（学務委&課と学業継続のための支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミやクラスの担当教員・授業担当教員・学務・部活指導者・保護者らと連携した学生支援(情報の相互提供と活用含む) ・要支援学生のカウンセリング強化、学習規律の確立 ・学習・発達障害等、なんらかの事情で困り感を抱えた学生への支援体制整備と合理的配慮の実施：研修会の新サイクル計画実施 <p>－ 2 学生からの相談への対応策充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生相談室、健康管理室の活用呼びかけ、対応の充実、相談内容管理の徹底 <p>－ 3 学生相談記録の充実、各種学生情報の収集と管理</p> <p>－ 4 学生サービスに対する学生からの意見・要望聴取(全学対象のアンケート実施)</p> <p>－ 5 学生生活上のリスクに対する注意喚起</p> <p>－ 6 経済的困窮を抱えた学生に対する支援(情報提供、助言、学内ワークスタディ制度)</p> <p>－ 7 改正障害者差別解消法、改正個人情報保護法、民法の一部を改正する法律（成年年齢関係）等の関係法令に則った支援体制のコンプライアンス精査および制度・規程の整備</p>
	<p>2-1 サークル活動の更なる活性化への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による活動停滞解消に向けた働きかけ：新年度直後の新入部員獲得に向けた梃子入れ策 ・サークル活性化に向けた環境整備・支援(勧誘・新規サークル立ち上げ・サークル運営支援含む) ・指定強化運動部支援(顧問(部長)・監督・コーチ会議実施、募集協力、要支援学生向けガイダンス等) ・学生プロジェクト支援制度 ・他部署と連携した DEST 活動支援 <p>－ 2 ボランティア活動・地域社会活動(学生の体験的な活動)の推奨・支援(情報提供、学生募集)</p>
	<p>3-1 リメディアル講座の開設</p> <p>－ 2 エクステンション講座の拡充（日商簿記2級講座の複数クラス開設、日商簿記3級およびリテールマーケティング講座の継続実施）</p> <p>－ 3 入学前学習のサポート(入試委・学務委・学部学科等との連携による)</p>

(Do) 実 施	<p>1-1 定例会議を開催し、支援を必要とする学生ひとりひとりの状況を丁寧に把握し、面談等につなげた</p> <p>-2 学生相談室、健康管理室の活用呼びかけ、対応の充実(特にオンラインでの連絡)、相談内容管理の徹底</p> <p>-3 入学前学習の充実とプレースメントテスト、リメディアル講座との接続で基礎学力のフォローを実施</p> <p>-4 アンケート未実施</p> <p>-5 前学期は全学年、後学期は一年を対象に資料を配付して注意を喚起</p> <p>-6 学内ワークスタディ制度を運用</p> <p>-7 改正障害者差別解消法、改正個人情報保護法、民法の一部を改正する法律（成年年齢関係）等の関係法令に則った支援体制のコンプライアンス精査および制度・規程の整備</p>	
	<p>2-1 サークル活動活性化への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧問の責務について再整理 ・コロナ禍の中での活動ルールの修正、ならびに活動助言 ・学生プロジェクト支援制度採択再開 <p>-2 ボランティア活動・地域社会活動について、ポータルサイトを利用した参加情報の掲示や、参加申し込みに Forms を導入することで参加学生の増加を図った。青森市消防からの依頼を受け、令和4年度「緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練」への全学的な参加協力を調整し、参加にあたっては2日間にわたり職員3名が支援した。</p>	
	<p>3-1 学部学科のニーズに応じたリメディアル講座を開講した</p> <p>3-2 日商簿記2級、日商簿記3級、日商リテールマーケティング3級検定への対策講座を複数回通年で開講した。</p> <p>3-3 各学部学科のニーズに応じた入学前学習のサポートを行なった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経法：個別指導、看護：入学前課題と指導、短大：オンラインドリルを導入し入学前から卒業まで活用) 	
(Check)	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
点 検	<p>1-1 就学支援の充実、多様な学生に応じた環境構築の実施状況（退学数・率の推移、要支援学生データ、新たに導入した合理的配慮・制度、発達・学習障害学生への対応に関する教職員研修内容）</p> <p>-2 相談への対応状況(学生相談室・健康管理室の月別利用状況)</p> <p>-3 相談記録状況(学生相談記録)</p> <p>-4 学生からの意見要望(アンケート結果)</p>	<p>1. 退学数・率の推移、要支援学生データ、学生相談室・健康管理室の利用状況、新たに導入した合理的配慮・制度、発達・学習障害学生への対応に関する教職員研修内容</p>

	<ul style="list-style-type: none"> - 5 生活リスクの注意喚起状況(該当案件件数) - 6 経済支援状況(ケーススタディ制度利用者リスト) - 7 法令に則った支援体制状況(制度・規定の整備状況) 				
	<ul style="list-style-type: none"> 2-1 指定強化サークル募集時の本学募集学生像伝達徹底、DEST 活性化の実施状況(学生団体・活動状況、指定強化運動部指導者会議議事録、学生プロジェクト支援制度採択状況、入試関連部門、部活指導者へのヒアリング、DEST 活動内容) - 2 ボランティア・地域社会活動状況(参加学生・団体リスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 2-1 学生団体・活動状況、指定強化運動部指導者会議議事録、学生プロジェクト支援制度採択状況、入試関連部門、部活指導者へのヒアリング記録 - 2 ボランティア募集件数 27 件、参加人数 23 名(学院大:22 名、専門:1 名)、緊急消防援助隊合同訓練参加学生 43 名 			
	<ul style="list-style-type: none"> 3-1 リメディアル講座の実施状況(リメディアル講座の日程表・時間割、参加者人数) - 2 エクステンション講座の実施状況(エクステンション講座の日程表・時間割、参加者人数) - 3 入学前学習サポート状況(課題内容、参加者人数、課題提出人数) 	<ul style="list-style-type: none"> 3-1 リメディアル講座の日程表・時間割、参加者人数(延べ 31 人) - 2 日商 3 級、2 級(商簿・工簿)対策講座 リテールマーケティング 3 級、2 級集中講座 受講者数 98 名 - 3 【経法】 総合型選抜・スポーツ特別選別合格者対象小論文課題(60 人)、入学前ガイダンス(総合型・学校推薦型・スポーツ特別推薦型合格者対象 出席者 94 人)、小論文個別添削指導 2 回(14 人) 【看護】 天声人語書き写し、スタートアップトレーニング課題(42 名) 【短大】 ちゅっぴいドリル(食栄 38 人・幼保 35 人)、ピアノレッスン(グループレッスン 12 人・プライベートレッスン 6 人) 			
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1			○	
	事業目標 2			○	
	事業目標 3		○		

<p>評 価 理 由</p>	<p>事業目標 1：退学の防止、特性をもつ学生への個別対応。アンケートは実施できていない。 事業目標 2：コロナ禍による学生の諸活動の低下。学生団体 DEST は活動を休止している。 事業目標 3：平年通りに実施</p>
<p>(Action) 改 善</p>	<p>事業目標 1：複数アンケートに回答する学生負担軽減のため、学務主体のアンケートに当センター関係設問を追加する形式でアンケート実施 事業目標 2：引き続き新型コロナウイルスの感染防止に努めながら、新入生の諸活動への参加を促進、奨励する手だてを講じる 事業目標 3：リメディアル講座の主たる対象である看護学部と協議し、出席率及び初年次教育効果の向上を狙い、受講対象者の選出方法および開講時期を変更</p>

令和4年度 事業活動PDCA サイクルシート

委員会等：地域連携センター

(Plan) 事業 目 標	1 頼られる教育機関として、連携協定を締結している機関と取り組む各種事業を着実に推進する。 2 学園全体の地域連携推進体制の一層の強化を図り、学生の地域への関心を高め、地域貢献の姿勢を育む。	
事業 計 画	1-1 連携機関及び各種団体等と連携・協働した事業を着実に実施する。 - 2 むつ市、弘前大学との協定に基づく「むつサテライトキャンパス」事業を推進する。 2-1 学生・教職員の地域社会と連携した活動への参加を積極的にコーディネートする。 - 2 青森市産官学連携プラットフォーム事業に、学生の参加を促しながら積極的に参画し連携を図る。 - 3 サテライトキャンパス「FRIENDLY WINDOW」の利用団体及び利用者数を向上させる。	
(Do) 実 施	1-1 実績は団体数 13 件、活動回数 48 回であった。コロナウイルス感染症の影響により、活動が停滞するものと思われたが、目標値を上回ることができた。 - 2 弘前大学の他、新たに 2 大学を加えて「大学祭」が開催され、本学から実行委員として 2 名、ステージ発表に 2 団体が参加した。また、本学が主担である「教養講座」、「高校生向け講座」については 7 講座実施し、好評を博した。	
	2-1 32 名の教員、290 名の学生が地域社会と連携した活動に取り組み、大きく目標を上回ることができた。 - 2 コロナウイルス感染症の拡大による活動制限があったにもかかわらず、8 つの事業を実施し 155 人の参加者があり、目標値を上回った。 - 3 広報を強化してサテライトキャンパスの利活用を促したことにより、利用団体数 15 団体、利用者数 770 人となり、大きく目標値を上回ることができた。	
(Check)	計画段階の点検項目 ※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
点 検	1-1 連携して活動した団体の数及び活動の回数：団体数 10/活動回数 30 (実施記録) - 2 連携して実施した事業及び講座の回数：事業数 2/講座数 7 (実施記録)	1-1 連携して活動した団体の数及び活動の回数：団体数 13/活動回数 48 (実施記録) - 2 連携して実施した事業及び講座の回数：事業数 3/講座数 7 (実施記録)
	2-1 学生・教職員の地域社会と連携した活動への参加人数：教員数 10/学生数 100 (実施記録) - 2 連携した事業数及び参加者数：事業数 5/参加者数 100 (実施記録)	2-1 学生・教職員の地域社会と連携した活動への参加人数：教員数 32/学生数 290 (実施記録) - 2 連携した事業数及び参加者数：事業数 8/参加者数 155 (実施記録) - 3 「FRIENDLY WINDOW」の利用団体及び利用者数：

	－ 3 「FRIENDLY WINDOW」の利用団体及び利用者数： 団体数 10/人数 500（業務日誌）	団体数 15 /人数 770（業務日誌）			
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2	○			
評 価 理 由	<p>事業目標 1： コロナ禍にあり種々の制約を受けながらも概ね計画した事業（活動）・講座を実施することができ、目標を達成したものと判断し、「Level III」とした。</p> <p>事業目標 2： 事業の点検項目に掲げた「教員数・事業数・団体数」等について、実績値において目標値総数を大きく上回ることができた。また、サテライトキャンパス「FRIENDLY WINDOW」の利活用については広報を強化し、広く周知を図ったことにより利用者を増やすことができた。このことを踏まえて評価を「Level IV」とした。</p>				
(Action) 改 善	<p>未だに収束しないコロナウィルス感染症の蔓延が、多くの活動を制限し集客を難しくしているものの、コロナ禍での事業及び講座実施のノウハウを会得できたことにより、各団体との連携の方策や事業実施のための方途を見出すことができている。次年度は公開講座の実施、各団体との連携事業の充実により一層取り組んでいく。</p> <p>また、サテライトキャンパスの利用者の拡大に対する方策としては、「青森商工会議プロジェクト」の利活用に係る「提言書」を踏まえ、小規模の講座の開催、各種サークル等の活動に利用して頂けるように周知・広報に努めたい。さらに学習相談のサービス機能をより充実させ、地域住民の生涯学習の情報提供のプラットフォームとして、その期待に応えていく。</p>				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：地域マネジメント研究所

(Plan) 事業 目 標	<p>1. 地域課題の解決に向け、グローバルな視野に立脚した研究を推進する。</p> <p>2. 地域の新時代への適応を促進するために、経済・社会、雇用、文化の発展に寄与する各種取り組みを、地域と連携して実施する。</p>
事業 計 画	<p>1-1 研究所が独自に実施する特定テーマに関する受託ベースでの研究： 助成研究、寄付研究、受託研究、等の実施。</p> <p> - 2 他機関との連携において展開する研究： 研究所外の機関と連携した、共同研究、共同調査、等の実施。</p> <p>2-1 研究所独自の情報発信： 研究所年報・レターの発行。</p> <p> - 2 外部と連携した情報発信： ビジネスセミナー、公開シンポジウム、社会デザイン・ビジネスラボ（商工会議所連携）、等の実施。</p>
(Do) 実 施	<p>1-1 研究所が独自に実施する特定テーマに関する受託ベースでの研究： 助成研究 1 件（古川医療福祉設備振興財団助成研究）、受託研究 3 件（i あおもりツーリズム創発塾、ii 学生によるアオモリワーケーション体験・交流プログラム企画業務、iii 浅虫ウォーキングプログラム造成事業）。所報の発行を円滑に進めるために、研究年報執筆要領を新たに定め、それに合わせて投稿規程も改定。</p> <p>1-2 他機関との連携において展開する研究： 学外共同研究 3 件（i ヘルスツーリズム、ii 学生援農モデル、iii バリューチェーンプロセス協議会研究 WG 2 テーマ）。 学内共同研究 1 件（継続的地域経済産業調査）。 その地域機関との共同調査・研究 4 件（i 青森県サイクル・ツーリズム推進協議会事務局、ii 国際グリーンツーリズム推進、iii 地域における新事業創出に関する可能性調査、iv 県内各市町村の総合計画作成支援）</p> <p>2-1 研究所独自の情報発信： 研究所年報 18 号の発行（論文 8、研究ノート 2、講演録 1）、19 号の原稿を募集。ニュースレター 9 号の発行。</p> <p>2-2 外部と連携した情報発信： 青森学術文化振興財団助成によるビジネスセミナーを 12 月に開催（テーマは「地域活性化のための DX の考え方とその活用事例ー観光・まちづくりを主テーマとしてー」）。 あおもりツーリズム創発塾 2022 の公開セミナーを 7 月（テーマは「観光×SNS の実践とこれから」）・10 月（テーマは「SNS の使い分けと投稿テクニック」）に開催。 社会デザイン・ビジネスラボを 10 月（テーマは「地域づくりと関係人口」）に開催。</p>

<p>(Check)</p> <p>点 検</p>	<p>計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載</p>			<p>点検結果</p>	
	<p>1-1 研究所が独自に実施する受託ベースでの研究の実施状況 (研究・調査実施実績の有無、予定期間・予算との乖離、成果の妥当性・有用性に関する研究所管理記録)</p> <p>-2 他機関との連携において展開する研究・調査の実施状況 (研究・調査実施実績の有無、予定期間・予算との乖離、成果の妥当性・有用性に関する研究所管理記録)</p>			<p>1-1 実績報告書、研究成果報告書等の成果を点検し、初期に計画した研究所独自の研究活動が実施されたことを確認した。</p> <p>-2 研究成果報告書の成果を点検し、初期に計画した他機関と連携した研究活動が実施されたことを確認した。</p>	
<p>2-1 研究所独自の情報発信イベントの実施状況(発信有無、発信時期・内容の妥当性に関する研究所管理記録)</p> <p>-2 外部と連携した情報発信イベントの実施状況(発信有無、発信時期・内容の妥当性に関する研究所管理記録)</p>			<p>2-1 年報・レター等の成果を点検し、初期に計画した研究所独自の情報発信が実施されたことを確認した。</p> <p>-2 イベント開催案内・参加者リスト・実績報告書等の成果を点検し、初期に計画した外部と連携した情報発信が実施されたことを確認した。</p>		
<p>評 価</p>	<p>事業目標</p>	<p>Level IV 目標以上の成果を達成した</p>	<p>Level III 目標を達成した</p>	<p>Level II 目標達成が充分ではなかった</p>	<p>Level I 目標を達成していなかった</p>
	<p>事業目標 1</p>		<p>○</p>		
	<p>事業目標 2</p>	<p>○</p>			
<p>評 価 理 由</p>	<p>事業目標 1： 実施した研究の案件数とそれらの内容から、期初に計画していた目標は達成できたと評価する。寄付研究の実績はなかったものの、年度により研究種別に変化があるのは避けられず、そのことに問題があるとは考えない。</p> <p>事業目標 2： 期初に計画していた案件は実施できたので、期初に計画していた目標は達成できた。それに加え当初目標ではなかったが、懸案であった所報原稿の電子媒体による投稿を制度化できた。</p>				
<p>(Action)</p> <p>改 善</p>	<p>事業目標 1： 引き続き受託ベースでの研究の拡大に力を入れるとともに、適宜取り組み案件・テーマの改廃を進めることにより地域への貢献度を高める。外部とのネットワーク強化に努め、中長期的には、地域におけるオープン・イノベーション拠点としての役割を強化する。</p> <p>事業目標 2： これまでの活動水準(質・量)を維持することに努めるとともに、扱うテーマが時流に即したものであり続ける努力をする。そのために、外部との協業関係を強化する。</p>				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：看護実践センター

(Plan) 事業 目 標	1 地域において看護師特定行為を実践できる人材を育成する。 2 地域の看護職者の看護過程展開・看護研究能力の向上に貢献する。 3 看護実践センターの活動を通じて地域連携・地域貢献を推進する。			
事業 計 画	1-1 特定行為研修の適切な運営と点検（定員 6 名） 2-1 看護過程セミナーの適切な運営と点検（4 回実施） - 2 看護研究研修会の適切な運営と点検（3 回実施） 3-1 地域の関係機関・団体、実習施設への情報発信 - 2 地域の看護職者や実習施設等の継続教育等についてのニーズの把握			
(Do) 実 施	1-1 9 月末に 2 期生 6 名の修了生を輩出した。また、10 月に 3 期生の選抜を行い 6 名が入講した。 2-1 看護過程セミナーを計画通り 4 回実施した（8 施設から 20 名）。 - 2 看護研究研修会を計画通り 3 回実施した（5 施設から 10 名）。 3-1 特定行為研修について、地域の看護者を対象に研修会（オンライン）やリーフレットによって周知を図った。看護過程セミナー及び看護研究研修の開催について青森市内の医療機関に周知した。 - 2 看護過程セミナー及び看護研究研修の参加者に、受講後にアンケート調査を行った。			
(Check) 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果		
	1-1 特定行為研修の実施状況（特定行為研修 WG 議事録、管理員会記録）	1-1 特定行為研修 WG 議事録（9 回）、管理員会記録（1 回）		
	2-1 看護過程セミナーの実施状況（セミナー実施記録） - 2 看護研究研修会の実施状況（研修会の実施記録）	2-1 看護過程セミナーの実施記録（4 回）と 2022 年度活動報告 - 2 看護研究研修会の実施記録（3 回）と 2022 年度活動報告		
	3-1 情報発信の実施状況（セミナー・研修会等の案内、実施結果） - 2 ニーズ調査の実施状況（ニーズ調査の結果）	3-1 セミナー・研修会等の案内、実施結果（第 2 回特定行為研修 WG 議事録） - 2 ニーズ調査の結果（看護過程セミナー及び看護研究研修会の 2022 年度活動報告）		
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった
				Level I 目標を達成していなかった

	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
評 価 理 由	事業目標 1～3：いずれも計画通り実施した。				
(Action) 改 善	事業目標 3： ニーズ調査の結果を踏まえて、2023 年度看護研究研修会の回数を増やし、初級者用 3 回、指導者用 2 回とする。				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：基幹教育センター

(Plan) 事業 目 標	「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」等が示す教育内容について、本学での実施および発展を目指す。 1 学園設置校における AI、数理、データサイエンス教育の実施状況の確認と改善。 2 ICT 活用教育を活発化させる。 3 遠隔授業の実施に向けた支援体制の強化 4 設置校・学部を横断する教育導入に向けた体制整備。	
事業 計 画	1 学園設置校における AI、数理、データサイエンス教育の実施状況を把握し、一部教育内容の共通教育化に向けた検討を行う。また、高い技量の養成を目的とした「データ分析実践プログラム（仮）」の実施における支援を行う。 2 新入生の PC 必携化に伴う ICT 活用教育の活発化に向けた検討、提案を行う。 3 遠隔授業の実施に向けた教員、学生への支援を行う（各種ガイダンスの実施および「ガイドライン」、「教員向けマニュアル」のアップデート等）。 4 設置校・学部を横断する教育（文理横断教育、リベラルアーツ教育）の導入に向けた体制を整える。	
(Do) 実 施	1 学園設置校の AI、数理、データサイエンス教育および「データ分析実践プログラム」の実施状況を確認した。 2 ICT 活用教育の活発化に向け、教員を対象とした FD 研修会を二度にわたって実施した。 3 遠隔授業の実施に向けた新入生向けのガイダンスおよび、遠隔授業実施に関わる「ガイドライン」および「教員向けマニュアル」のアップデートを行った。 4 設置校・学部を横断するリベラルアーツ教育の導入に向けた情報の整理および、学園におけるリベラルアーツ教育の定義案を纏めた。	
(Check) 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1 本学園における AI、数理、データサイエンス教育の「一部教育内容の共通教育化」や「データ分析実践プログラム」の実施状況（基幹教育センター議事録） 2 ICT を活用した教育の情報の収集状況（基幹教育センター議事録および会議資料） 3 遠隔授業の実施体制整備状況（基幹教育センター議事録） 4 リベラルアーツ教育の情報収集・課題整理状況（基幹教育セン	1 第 6 回センター会議資料および議事録 2 第 5 回センター会議資料および議事録、FD 研修会資料 3 新入生ガイダンス資料、学内ポータルサイト 4 第 7 回センター会議資料および議事録

	ター議事録)				
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1			○	
	事業目標 2	○			
	事業目標 3		○		
	事業目標 4	○			
評 価 理 由	<p>事業目標 2：当初目標に掲げていた「ICT 活用の情報収集」に留まらず、2 度（初級・中級）の講習を実施。参加者から概ね好評を得た。</p> <p>事業目標 4：目標と掲げた「情報収集」「課題整理」だけでなく、実際の教育導入に向けた定義（案）を纏めることができた。</p>				
(Action) 改 善	<p>事業目標 1：本学園における AI、数理、データサイエンス教育の「一部教育内容の共通教育化」に向けた課題点を整理し、共通教育の実施に向けた検討を行う。</p>				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：教学マネジメント委員会

(Plan) 事業 目 標	本学における教学に関する全学的な方針の策定、検証、評価等を行い、教学マネジメントサイクルを円滑に運用することを目的とする。 1 3つのポリシーとそれに基づく教育内容・実施体制の確立と、定期的な点検 2 学修成果の把握・可視化の方針の策定と、定期的な点検 3 教学マネジメントを支える基盤（FD・SD、IR等）に関する全学的な方針の策定 4 本学の取組みの公表に関する方針の策定	
事業 計 画	1-1 現状の3つのポリシーの見直しと、ポリシーに基づいた点検・評価指標を策定する。 -2 3つのポリシーに基づき本学の取組みが適切に実施されているか点検・評価するためアセスメントプランを策定し、それに基づき点検・評価を実施する。 2-1 学修成果の可視化のために活用するツール（学修ポートフォリオ、ディプロマサプリメント等）を明確にする。 3-1 体系的なFD・SD活動の展開に向けた、中期的な目標と「望まれる教員像」の策定。 -2 IRを活用した情報分析による点検・評価を実施するとともに、活用の活性化を図る。 4-1 情報公表方針を検討する。	
(Do) 実 施	1-1 3つのポリシーを見直し、点検・評価指標を策定。 -2 アセスメントプランを策定し、アセスメント報告書を作成（2022年度末予定）。 2-1 学修ポートフォリオの基本方針を策定。ディプロマサプリメントを確立（2022年度末予定）。 3-1 「望まれる教員像」を策定。 -2 IRデータに基づく分析を実施。 4-1 情報公表方針（案）を策定。	
(Check) 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 3ポリシー見直し状況（委員会議事録、3ポリシー） ポリシーに基づいた教育活動の評価・点検結果（委員会議事録、アセスメント報告書） -2 アセスメントプラン策定状況（委員会議事録、アセスメント報告書）	1-1 経営法学部・看護学部教授会資料（2022年12月7日・14日）、3ポリシー（2022年12月） 2022年度アセスメント報告書、経営法学部・看護学部教授会資料（2023年3月1日・8日） -2 2022年度アセスメント報告書、経営法学部・看護学部教授会資料（2023年3月1日・8日）

	2-1 学修成果可視化の状況（委員会議事録、学修成果可視化ツール）	2-1 学修ポートフォリオ原案・ディプロマサプリメント様式、教学マネジメント委員会議事録（2023年3月〇日）			
	3-1 FD・SDの中期的目標策定状況（委員会議事録、2022年度目標、FD実施報告書）、「望まれる教員像」 -2 IR活用状況（委員会議事録、IR活用状況一覧）	3-1 「望まれる教員像」（2022年5月20日教学マネジメント委員会資料）、FD委員会議事録（2022年〇月〇日）、2022年度FD報告書 -2 IR推進協議会議事録（2022年〇月〇日、〇月〇日）			
	4-1 情報公開方針策定状況	4-1 情報公開方針（案）、教学マネジメント委員会議事録（2023年3月〇日）			
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1		○		
	事業目標2		○		
	事業目標3			○	
	事業目標4		○		
評 価 理 由	事業目標2：ディプロマサプリメントは2023年度4月教授会において承認見込み。学修ポートフォリオの確立。 事業目標3：「望まれる教員像」に基づいたFD・SA活動の検討について継続審議となっている。				
(Action) 改 善	事業目標2：学修ポートフォリオ、ディプロマサプリメントの確定と2023年度における活用。 事業目標3：「望まれる教員像」に基づいたFD・SA活動方針の策定と実施（FD委員会との連携）。 事業目標4：情報公開方針の策定、方針に基づいた情報公開の実施。				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：自己点検・評価委員会

(Plan) 事業 目標	<p>本学が自らの責任で教育研究活動の点検・評価を行い、その結果をもとに実施する改善・改革を通して本学の教育研究活動の質を保証する体制を整え、その体制が円滑に機能することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 内部質保証のための学内の組織の整備と責任体制の明確化 2 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有 3 IR (Institutional Research) などを活用した十分な調査・データの収集と分析による教育研究活動の質保証 4 教育研究の向上につながる実質的な教員実績評価の確立と、評価結果の公表と活用 (中期計画) 	
事業 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1-1 アセスメントプランを確立する。 2-1 公表を前提とした事業活動 PDCA サイクルシートの一部修正を行い、それに基づいて点検・評価を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> - 2 評価に基づく改善を定期的 to 実施する。 - 3 アセスメントプランに基づく自己点検・評価の結果を学内で共有し、社会へ公表する。 3-1 教育研究活動の質保証のために必要な調査・データを明確にする。 4-1 教員活動報告書による自己点検・評価を実施し、評価体制を検証する。 <ul style="list-style-type: none"> - 2 教員の実績評価結果の活用方法を検討する。 	
(Do) 実施	<ol style="list-style-type: none"> 1-1 アセスメントプラン策定 2-1 PDCA サイクルシートを見直し、修正後書式にしたがって点検・評価を実施。 <ul style="list-style-type: none"> - 2 点検・評価結果に基づく改善 (Action) を明確にし、次年度の計画に反映。 - 3 アセスメント報告書を作成し、教授会で意見交換するとともに、HP 上で公表。 3-1 アセスメントプランにおいて必要な調査・データを明確化。 4-1 教員活動報告書に基づく評価の体制を整備し、実際の点検・評価を実施。 <ul style="list-style-type: none"> - 2 教員実績評価結果の活用方法を策定。 	
(Check) 点検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 アセスメントプラン策定状況 (委員会議事録、完成版資料)	1-1 青森中央学院大学アセスメントプラン
	2-1 PDCA サイクルシート見直し状況 (委員会議事録、見直し後様式)、点検・評価の実施状況 (実施スケジュール、実施記録)	2-1 PDCA サイクルシート様式 (2022 年〇月)、2022 年度 PDCA サイクルシート最終版 (2022 年 3 月)

	<ul style="list-style-type: none"> - 2 事業改善の実施状況（実施記録） - 3 アセスメントプランによる点検・評価（アセスメント報告書、HP における公表） 	<ul style="list-style-type: none"> - 2 PDCA サイクルシート（2022 年度最終版） - 3 アセスメント報告書 			
	3-1 必要調査・データの協議状況（委員会議事録、必要データ一覧）	3-1 アセスメント報告書、自己点検・評価委員会議事録（2023 年 3 月〇日）			
	<ul style="list-style-type: none"> 4-1 教員活動報告点検・評価の実施状況（実施記録） 評価の在り方検討状況（委員会議事録、評価体制図） - 2 教員実績評価の活用方法検討状況（委員会議事録、教員実績評価細則） 	<ul style="list-style-type: none"> 4-1 2022 年度教員活動報告書 自己点検・評価委員会議事録（）、教員実績評価実施規定 - 2 自己点検・評価委員会議事録（）、教員実績評価実施細則 			
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
	事業目標 4		○		
評 価 理 由	<p>事業目標 1：アセスメントプラン策定。</p> <p>事業目標 2：PDCA サイクルシートの見直しと、新様式による点検・評価。アセスメント報告書公表。</p> <p>事業目標 3：アセスメント報告書による点検・評価の実施。</p> <p>事業目標 4：教員実績評価制度の立ち上げと点検・評価の実施。</p>				
(Action) 改 善	<p>事業目標 1：アセスメントプランの見直し</p> <p>事業目標 2：PDCA サイクルシートによる改善項目の完遂</p> <p>事業目標 3：アセスメント報告書における課題等の実施</p> <p>事業目標 4：教員活動評価・点検の精度向上</p>				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：学務委員会（経営法学部）

(Plan) 事業 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学生ニーズや、時代の変化を踏まえた学修環境の検証と整備を行う。 2 3つのポリシーを踏まえた教育の質保証を行う。 3 ディプロマ・ポリシー、単位認定基準、卒業認定基準を周知し、教学マネジメント委員会が示す方針に従ったガイドライン等を作成する。 4 学生層や学年ごとの変化を把握し、問題の解消に向けた対策を実施する。 5 特別養成プログラムを着実に実施する。 6 通常の業務の迅速化を図り、それ以外の突発的に発生する業務にも対応できる体制を整える。 7 学生活動の支援を行う。
事業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業ごとのクラスサイズが教育効果を十分にあげられる人数となっているかなど、学修環境についての検証を行う。 2 学修・教育成果の明示に向けた成績評価基準の平準化に向けたガイドラインを作成する。 3 ディプロマ・ポリシーを周知し、進級基準の要否に関する検討を継続して行う。 4 編入生や秋季入学生に対応した支援・受け入れ体制を拡充する。 5 多様な学生層に対応した特別養成プログラム「グローバル人材養成プログラム」や「データ分析実践プログラム（仮）」の実施に向けた支援を行う。 6 新型コロナウイルス感染症対策として適切な授業環境を整え、遠隔授業への切替えが発生した際は、基幹教育センターと連携した学生の支援に当たる。また、感染症の影響を受けた学生に対する教育的配慮を行う。 7 学友会の活動を支援する。
(Do) 実 施	<ol style="list-style-type: none"> 1 感染症対策として、各教室における履修可能人数を設けた。英語 I, II のクラスを1つ増設した。 2 成績評価基準の平準化に向けたガイドラインについて、看護学部と協議し、作成した。 3 ガイダンスにおいてディプロマ・ポリシーを周知した。 4 編入生や秋季入学生に対応した支援・受け入れ体制（特に専門演習への受け入れ）について拡充した。 5 「グローバル人材養成プログラム」の実施に向け、専門演習等の関連授業の調整を行った。「データ分析実践プログラム」の実施状況について確認を行った。 6 遠隔授業への切替えに備え、すべての授業に Teams コードを作成し、基幹教育センターと連携した支援体制を構築した。 7 学務委員が学友会顧問となり、学務課課員と共に各種活動を支援した。

(Check)	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載		点検結果		
点 検	1 学習環境の整備状況（履修者名簿）		1 履修者名簿、クラス分け名簿（情報処理、英語）		
	2 成績評価基準の平準化に向けたガイドライン作成状況（学務委員会委員会議事録）		2 第8・9・10回学務委員会議事要録		
	3 ディプロマ・ポリシーの周知状況、進級基準の要否に関する検討状況（学生便覧、学生の成績、資格取得状況調査の結果、就職状況調査の結果、卒業時の満足度調査結果、就職先の企業アンケート結果、学務委員会議事録）		3 令和4年度新入生オリエンテーション次第、学生便覧、大学ホームページ		
	4 編入生・秋季入学生への支援・受け入れ体制整備状況（学務委員会および国際交流センター会議事録）		4 第2・6回学務委員会議事要録		
	5 グローバル人材養成プログラム・データ分析実践プログラムに関する教育状況（グローバル人材養成プログラム推進委員会議事録、学務委員会議事録）		5 第10回学務委員会議事要録		
	6 新型コロナウイルスに対応した学習環境整備と教育的配慮の状況（学務委員会および国際交流センター会議事録、学事暦）		6 第3・4回学務委員会議事要録		
	7 学友会活動への支援状況（学務委員会議事録）		7 第4・5・8回学務委員会議事要録		
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2	○			
	事業目標 3		○		
	事業目標 4		○		
	事業目標 5		○		
	事業目標 6		○		
	事業目標 7		○		

評価理由	事業目標2： 経営法学部学務委員会において数年間かけて作成した「成績評価基準の平準化に向けたガイドライン」を、看護学部との共同作業の元で完成させた。
(Action) 改善	事業目標3： 進級基準の可否に関する検討を継続して行う

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：学務委員会（看護学部・別科助産専攻）

(Plan) 事業 目 標	<p>1 学修活動の保証のための自律的な実施と整備</p> <p>2 内部質保証のための成績評価方法の点検と確立</p>
事業 計 画	<p>1-1 学事歴・カリキュラムの円滑・効率的な点検と実施</p> <p> - 2 科目（講義・演習・実習）・定期試験・選抜試験等の調整（学内外含む）と実施</p> <p> - 3 学生の主体的活動（学友会、海外留学等）の支援</p> <p> - 4 学生の健康管理及び感染予防の実施</p> <p> - 5 ICT 活用教育の実施に向けて関連部署との連携</p> <p> - 6 教育効果を踏まえ、学生数・教室配置の検討</p> <p>2-1 成績評価基準および成績評価の平準化に関する検討</p> <p> - 2 GPA、カリキュラムマップに関する検討</p>
(Do) 実 施	<p>1-1 学内行事等については学事暦に則り、カリキュラム（旧・新）については各科目教員・関連部署と調整・連携しながら実施した。</p> <p> - 2 時間割については、Covid19 感染予防対策のため一部（日程、講義方法）を変更したが、概ね予定通り実施できた。Covid19 により自宅待機となった学生に対しては、欠席配慮としてオンライン講義等に対応した。定期試験は試験日程・定期試験要項を基に適切に実施できた。保健師教育課程選抜試験については、見直した新たな選抜実施要項を基に適正に選抜した。</p> <p> - 3 海外留学に際して学生の諸状況（渡航期間と定期試験追再試日程の重複、渡航のため卒業年次の延長）について対応した。帰国後の単位認定について関連資料を基に適切に実施した。国際交流委員会に対して、海外留学の可否判断のため学生・関連部署で共有するチェックリストの作成を依頼した、</p> <p> - 4 始業時・入学時の健康診断を滞りなく実施した。講義・演習・実習では Covid19 感染予防対策を継続して実施した。看護学実習に向けて小児感染症予防接種・B 型肝炎ワクチンの接種・インフルエンザ予防接種の履歴の管理・勧奨を行った。</p> <p> - 5 新入生ガイダンスの日程に、基幹教育センターと連携して PC ガイダンス（office365 のインストール、ポータルサイトの活用等）を取り入れた。Teams において各科目のチームコードを作成し、連絡・課題提示等に活用した。</p> <p> - 6 学生数を踏まえ適切な教室配置を行った。Covid19 の感染予防対策として、必要時、複数教室を使用して講義等を実施した。</p> <p>2-1 検討資料（学務課作成）を基に成績評価基準および成績評価の平準化に関して検討した。</p> <p> - 2 新たな DP・CP に基づいたカリキュラムマップの作成中である。</p>

(Check)	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載		点検結果		
点 検	1-1 学事歴・カリキュラムの実施状況 -2 時間割・試験運営状況 -3 学友会、海外留学支援状況 -4 健康管理及び感染予防実施状況 -5 ICT 活用教育実施状況 -6 学生・教室配置状況		1-1 第1回～11回学務委員会議事録 -2 前後学期時間割・定期試験日程・定期試験実施要項・保健師教育課程選抜実施要項 -3 第2回～5回第学務委員会議事録、海外留学チェックリスト（仮案）、第4回～7回教授会資料 -4 健康診断結果、小児感染症等接種済証 -5 新入生ガイダンススケジュール、各科目 Teams およびチームコード -6 前後学期時間割		
	2-1 成績評価基準検討状況 -2 GPA、カリキュラムマップ検討状況		2-1 第7回～9回学務委員会議事録、第9回～11回教授会資料 -2 カリキュラムマップ作成資料（各 DP 学修目標と科目の対比表）、第9回教学マネジメント委員会資料、第10回学務委員会議事録		
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
評 価 理 由					
(Action) 改 善	事業計画 2-2 の新たな DP・CP に基づいたカリキュラムマップについては、年度末を持って完成に至った。 次年度は、事業目標 2 に関連して、GPA に基づいた進級基準について検討を進めていく予定である。				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：入試広報委員会（経営法学部）

(Plan) 事業 目 標	<p>1 新型コロナ対策をとりつつ、効果的な入試広報活動を実施する</p> <p>2 高校との接続を意識した入試を推進する</p> <p>3 多様な入学生の受け入れ体制を作る</p>
事業 計 画	<p>1-1 ハイブリッド型入試広報</p> <p style="margin-left: 20px;">①非対面でも本学の魅力と特色を伝えられるよう Web コンテンツの充実を図る</p> <p style="margin-left: 20px;">②SNS の効果的活用：Q&A、情報発信、アンケート等に SNS を活用する</p> <p style="margin-left: 20px;">③必要に応じてオンラインでの模擬授業・スクーリング等を行う</p> <p> - 2 サポーター学生と連携・協働して、新型コロナ対策をとりながらも魅力あるオープンキャンパスの企画・運営を行う</p> <p>2-1 学部教員と連携・協働して高校訪問・入試説明会・体験授業などを行う</p> <p> - 2 高大連携委員会と連携し、高校時代に取得した資格による特待生制度等を推進する</p> <p>3-1 社会人・留学生・障がいのある学生等、多様な入学生の受け入れに向けて、学内関連部署と連携し、必要な体制作りをする</p>
(Do) 実 施	<p>1-1 ①学生目線で学生生活等の情報を発信する Web 版キャンパスニュースの作成を行った。</p> <p style="margin-left: 20px;">②LINE を用いてオープンキャンパスの告知、進学相談会案内、面接対策講座案内といった情報発信を行った。また、オープンキャンパスのアンケートを Forms で行うことにより、迅速にアンケートの集計ができた。</p> <p style="margin-left: 20px;">③新型コロナによる行動制限が緩和され、模擬授業・スクーリングについてはオンラインで行う必要がなかったため実施しなかった。</p> <p style="margin-left: 40px;">※入試活動の面では、学校推薦選抜において濃厚接触者となった受験者の面接をオンラインで行った。</p> <p> - 2 中心となるオープンキャンパスサポーター学生 3 名と打ち合わせを行い、新型コロナ対策もとりながら、延べ 80 名のサポーターの協力を得て参加者の満足度が高いオープンキャンパスを実施できた。</p> <p>2-1 高校訪問、入試説明会、体験授業</p> <p> - 2 高大連携委員会と連携し、資格取得入試制度の周知のためにリーフレットを作成し高校に送付した。また、受験可能性がある高校を訪問し説明を行った。</p> <p>3-1 日本在住の留学生の編入学制度に関して学務委員会、国際交流委員会と共同して検討している。</p> <p style="margin-left: 20px;">令和 7 年度入試制度検討 WG において多様な背景を持った学生受け入れに配慮した選抜、受け入れを支援する体制について検討している。(地域枠等)</p>

(Check)	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載				点検結果			
点 検	1-1 ① Web コンテンツ作成状況 (Web コンテンツ) ② SNS の活用状況 (Q&A、情報発信、アンケート等) ③ オンラインで模擬授業、スクーリング -2 オープンキャンパス企画・実施状況 (実施要項、参加者数)				1-1 ① 大学ホームページのキャンパスライフ (ハードディスクの故障等により未更新。2月初めに更新予定) ② 【SNS 登録者数】LINE 900 (うち有効数 306) ③ 模擬授業、スクーリングはオンラインでの必要が無く、実施しなかった キャンパスサポーター用マニュアル (5月、7月、8月) ※実施要項含む 参加者-5月: 高校生 22名、保護者 5名、計 27名 7月: 高校生 40名、保護者 15名、計 55名 8月: 高校生 74名、保護者 26名、計 100名			
	2-1 高校訪問・入試説明会・体験授業実施状況 (議事録等) -2 高校時代に取得した資格による特待生制度策定状況 (議事録等)				2-1 高校訪問: 教授会議事録 高校訪問報告書 入試説明会: 教授会議事録 各種進学ガイダンス・相談会等報告 模擬授業: 教授会議事録 各種進学ガイダンス・相談会等報告 -2 リーフレット、高校訪問記録。第4回入試広報委員会議事録 P22 資格取得特待制度出願者: 簿記-1名、英語-1名 (1月25日現在)			
	3-1 多様な入学生の受け入れに必要な体制・入試制度策定状況 (議事録等)				3-1 第8回 入試広報委員会議事録 第1回 令和7年度入試制度検討WG 議事録			
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった			
	事業目標 1		○					
	事業目標 2		○					
	事業目標 3		○					
評 価 理 由	事業目標:							
(Action) 改 善	事業目標 3: 日本在住の留学生の編入学制度、多様な背景を持った学生受け入れに配慮した選抜、受け入れを支援する体制について、各委員会と連携しながら受験者に有益で受験者増につながる試験制度を確立していきたい。							

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：入試広報委員会（看護学部）

(Plan) 事業 目 標	入学志願者確保につながる入試広報活動全般の企画、運営、評価、改善を行う。 1. 入試広報活動業務の企画、運営と改善 2. 高校生とその保護者、社会人への情報発信 3. 看護職を目指す人材の早期創出（中期計画）	
事業 計 画	1-1 本学看護学部の魅力が伝わるオープンキャンパスの企画、運営、評価、改善を行う。 -2 対面型入試広報活動に加えてハイブリッド型入試広報活動を行う（OC・高校訪問・説明会・体験授業など）。 -3 保護者を対象とした新たな企画を計画・実施する。 2-1 HPのWebコンテンツの充実を図り、情報発信（特待生の周知・OC企画内容など）にSNSを活用する。 -2 社会人を対象とした入試情報を発信する。 3-1 中学生から高校2年生を対象としたオンライン個別相談会を実施する。	
(Do) 実 施	1-1 新型コロナウイルス感染症対策を行いながらオープンキャンパスを3時間の開催として3回実施した。 オープンキャンパスにキッチンカーが出店し、参加者には引換券を無料配布した。 -2 高校教員対象説明会は会場での対面（第二部）に加えて、オンライン配信、当日参加できない高校教員へのオンデマンド配信を行った。 志願実績・在籍学生状況を踏まえた訪問リストに基づいて、教員とセンター職員の2名で高校訪問して情報を提示した。 県外高校からの個別相談の依頼には、教員とセンター職員とでオンラインで対応した。 高校や看護協会が主催する進学相談会・ガイダンスに出席する教員の調整・依頼を行った。 -3 オープンキャンパスでは保護者向けの相談ブースを設置し教員が対応した。 2-1 学校案内を作成し、看護学部HPを2回更新して、看護学部の情報発信を行った。 -2 社会人対象「進学相談会」の広報チラシを市内1万世帯へポストイングしてPRし、オンライン型・来場型で実施した。 3-1 中学生から高校生を対象とした「オンライン個別相談」では高校に案内を送付して実施した。	
(Check) 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 オープンキャンパスの実施状況（アンケート調査、議事録）	1-1 第1～5回委員会議事録、実施状況報告
	-2 OC・高校訪問・説明会・体験授業等の実施状況（アンケート調査、議事録）	-2 第1～8回委員会議事録
	-3 保護者を対象とした企画の実施状況（アンケート調査、議	1-3 第1～5回委員会議事録

	事録)				
	2-1 Webコンテンツの充実とSNSの活用状況（活用の実施実績実績、議事録）	2-1 第1～8回委員会議事録			
	-2 社会人を対象とした情報発信の実施状況（実施実績、議事録）	-2 第4・6回委員会議事録			
	3-1 オンライン個別相談会の実施状況（実施実績、議事録）	3-1 第2・4回委員会議事録			
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1		○		
	事業目標2		○		
	事業目標3		○		
評 価 理 由	<p>事業目標1：3回実施した看護学部オープンキャンパスには高校生155名、1回実施した別科助産専攻オープンキャンパスには26名の参加があり、アンケート結果によると大学の雰囲気、教員や学生の優しさ、模擬講義、看護体験等が高評価であった。</p> <p>事業目標1：教員とセンター職員が高校訪問を行ったほか、オンラインを活用した広報活動を行うことができた。</p> <p>事業目標2：大学案内の作成、看護学部HPの更新を行うことができた。</p> <p>事業目標2：教員が進学相談会等に出席して高校生・保護者への情報発信を行うことができた。</p> <p>事業目標2：高校訪問や教員説明会を通して情報発信を行うことができた。</p> <p>事業目標2：高校訪問では玄関先の対応となった高校があり情報交換には至らない事があった。</p> <p>事業目標2：社会人対象「進学相談会」の広報チラシを配布し社会人への情報発信を行ったが参加者はいなかった。</p> <p>事業目標3：中学生から高校生を対象とした「オンライン個別相談」を企画・実施できた。</p>				
(Action) 改 善	<p>事業目標1：保護者の要望を踏まえてオープンキャンパスに新たな企画を検討する。</p> <p>事業目標2：社会人を対象とした入試情報の発信は、遠方からの参加を想定しオンライン開催へと開催形式を検討する。</p> <p>事業目標2：進学相談会での学部紹介ファイルに、PC・タブレット端末を用いた運用を検討する。</p>				

令和4年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：キャリア支援委員会（経営法学部）

(Plan) 事業 目 標	1 高水準の就職率維持。 2 留学生に対する就職支援活動の強化。	
事業 計 画	1-1 年次別に明確な目的を定めたキャリアプログラムを策定し、学生の就職意識を高める環境を整備する。 - 2 単位制インターンシップ科目と連携しながら、インターンシップへの積極的対応を促進する。 - 3 個別相談への対応体制を強化する。 - 4 令和5年度新4年生対象の「学内企業就職セミナー」を実施する。 2-1 留学生を対象とした就職活動支援特別プログラムを実施する。(学園中期経営計画2年目) - 2 日本在住の本学留学生OBとの対話プログラムを継続実施する。(学園中期経営計画2年目)	
(Do) 実 施	1-1 年次別に明確な目的の下、前年度の授業実績を踏まえたプログラムの見直しを図り、実施した。 - 2 キャリアプランニング授業、単位型科目、通常のセンター業務、それぞれにおいてインターンシップへの積極対応を促進した。 - 3 来訪しやすく、相談しやすい、キャリア支援センターの環境整備に努めた。 - 4 令和5年度新4年生を対象とした「学内企業就職セミナー」を短大、専門学校と合同で企業50社を招いて実施する。 2-1 留学生対象の独自支援プログラムを策定し、実施した。 - 2 日本在住の本学留学生OBとの対話プログラムを、令和4年6月17日に実施した。	
(Check) 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 キャリアプログラムの実施状況（キャリアプランニング授業の実施状況） - 2 キャリア支援センター経由のインターンシップの状況（インターンシップ参加者数） - 3 キャリア支援センター利用の状況（利用者数、内容） - 4 セミナーの実施状況とその成果（セミナー実施状況、最終就職率）	1-1 キャリア支援委員会議事録第1～11回（1月31日時点） - 2 申込書、誓約書等 センター経由インターンシップ参加者4名 単位型科目16名 - 3 キャリア支援委員会議事録第11回（1月31日時点） 経営法学部 延べ利用者数386件 - 4 セミナー実施準備状況は第11回キャリア支援委員会議事録（1月31日現在） 就職内定率：97.6% 令和5年度第1回キャリア支援委員会議事録（令和5年3月31日最終内定率）

	2-1 留学生支援プログラムの実施状況（実施状況、参加率） - 2 対話プログラムの実施状況（実施状況、受講者フィードバック）		2-1 キャリア支援委員会議事録第2回、留学生支援セミナー申込者名簿第1回6/10, 第2回6/17開催、25名参加 - 2 留学生支援セミナー案内書、当日資料		
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1		○		
	事業目標2		○		
評 価 理 由	事業目標1： 事業目標2：				
(Action) 改 善	事業目標1：地域企業・団体とのネットワークを強化し、オープンカンパニー、インターンシップ等の体験型プログラムの充実を図る。 事業目標2：母国就職希望者へのサポート体制構築について検討する。				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：キャリア支援委員会（看護学部）

(Plan) 事業 目 標	1 保健医療に貢献できる人材を育成するためのキャリア支援 2 就職・進学への意識を高めるための情報発信 3 学生1人ひとりに合わせた就職活動の支援	
事業 計 画	1-1 学生が専門職として将来像や目標を意識化・明確化・実現化していくためのキャリア支援を実施する。 2-1 内定率100%を目指し、学生が主体的に就職・進学試験に関する準備ができるように支援する。 -2 看護学部専任キャリア支援アドバイザーを配置し、個別の就職・進学支援を行う -3 学年アドバイザーとキャリア支援委員会が連携・協働し、就職・進学支援を行う。 -4 就職活動が思うように進んでいない学生を早期に発見し、支援を行う。 3-1 求人・就職・進学情報に関する情報収集を行い、学生に情報を発信する。 -2 県内の医療機関の就職情報を学生に提供する機会を確保する。	
(Do) 実 施	1-1 各学年のキャリア支援計画に沿って、キャリア支援を実施した。 2-1 就職・進学活動に関するセミナーを実施した。 -2 学生の個別相談に応じ就職・進学支援を行った。 -3 学年アドバイザーと委員会が連携・協働し、就職・進学支援を行った。 -4 就職活動が思うように進んでいない学生を早期に発見し、支援を行った。 3-1 情報収集を行い、Teamなどを活用し学生に情報を発信した。 -2 県内施設を主とした病院等説明会を3月に開催予定である。	
(Check) 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 キャリア支援セミナーの実施状況（セミナーのアンケート結果、卒業時のキャリア支援に関するアンケート結果、卒業後3年目の卒業生および就業先に対するアンケート結果）	1-1 キャリア支援セミナーの実施状況

	<p>2-1 就職・進学希望者の進路状況（進路状況調査結果） キャリア支援センターの利用状況（センター利用状況調査結果） キャリア支援セミナーの実施状況（セミナーのアンケート結果、卒業時のキャリア支援に関するアンケート結果）</p> <p>-2 キャリア支援センターの利用状況（センター利用状況調査結果）</p> <p>-3 就職・進学希望者の進路状況（進路状況調査結果）</p> <p>-4 就職・進学希望者の進路状況（進路状況調査結果）</p>	<p>2-1 進路状況調査結果、キャリア支援センター利用状況、セミナーのアンケート結果、卒業時のキャリア支援に関するアンケート結果</p> <p>-2 キャリア支援センターの利用状況</p> <p>-3 進路状況調査結果</p> <p>-4 進路状況調査結果</p>			
	<p>3-1 キャリア支援センターの利用状況（センター利用状況調査結果）</p> <p>-2 病院等説明会の実施状況（委員会議事録、参加学生、参加施設のアンケート結果）</p>	<p>3-1 キャリア支援センター利用状況</p> <p>-2 病院等説明会の実施状況</p>			
<p>評価</p>	<p>事業目標</p>	<p>Level IV 目標以上の成果を達成した</p>	<p>Level III 目標を達成した</p>	<p>Level II 目標達成が充分ではなかった</p>	<p>Level I 目標を達成していなかった</p>
	<p>事業目標1</p>		○		
	<p>事業目標2</p>		○		
	<p>事業目標3</p>		○		
<p>評価理由</p>					
<p>(Action) 改善</p>	<p>事業目標2：Teamなどを活用し学生に情報を発信したが、活用状況も把握する。</p>				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：研究推進委員会

(Plan) 事業 目 標	1. 研究環境を整備充実する 2. 大学の特色となり得る研究を推進する 3. 外部資金獲得活動を活性化する 4. 研究成果発信としての研究紀要を刊行する	
事業 計 画	1-1 「学術懇談会」など、学内における当委員会主催の研究会や研修会を実施し評価する 2-1 2021年度に作成した資料等も含めて検討し、研究のカテゴリーとして具体的な視点を提言する -2 本学の研究ブランディングを考える機会として、本学の特色となる研究活動をテーマとした懇談会を開催する 3-1 各省庁による研究助成および科研費種別の情報提供を行う -2 「外部資金獲得講習会」を実施する -3 申請書の作成に向けたサポート体制を強化する 4-1 投稿規定の一部改訂：投稿論文の論文種類および英文表記等、編集上の確認事項の見直しと統一を行う -2 積極的な投稿を呼びかけ、適切な編集作業を実施する	
(Do) 実 施	1-1 学術懇談会を実施した 2-1 資料の検討から研究のカテゴリーを抽出し、学術懇談会で発表した -2 2-1の検討内容をふくめて学術懇談会を開催した 3-1 HP、学内メール等で情報提供を行った -2 集合による講習会にかわりメールで説明資料の配付をおこなった -3 科学研究費の調書作成に関する要点等の案内をおこなった 4-1 投稿論文の論文種類、英文表記、編集上の確認事項について、一連の見直しと統一を行い、周知した -2 投稿の呼びかけを複数回行い、計画通りに編集作業を進めた	
(Check) 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
1-1	当委員会主催研究会・研修会の実施の実施状況（回数、開催概要、参加者によるアンケート結果）	1-1 学術懇談会の開催（計3回：7/26、9/27、1/31） 開催概要、参加者によるアンケート結果
2-1 -2	研究カテゴリーの策定と結果状況（検討結果資料、会議録） 本学の特色となる研究活動をテーマとした学術懇談会の	2-1 第9回委員会議事録、分析結果、第3回学術懇談会発表資料 -2 第3回学術懇談会開催概要、アンケート結果

	実施状況（開催概要、参加者によるアンケート結果）				
	3-1 情報提供の実施状況（研究助成および科研費種別の情報の学内ポータルサイト掲載記録）	3-1 対象の学内ポータルサイト掲載部分			
	-2 「外部資金獲得講習会」の実施状況（回数、開催概要、参加者によるアンケート結果）	-2 講習会の代替として配付した外部資金獲得に関する説明資料			
	-3 サポート体制の実施状況（実施記録、外部資金に新規申請した数）	-3 学内メール記録、科研費申請応募件数 12 件（昨年比+3 件）			
	4-1 投稿規定見直しと結果の状況（会議録、修正された投稿規定）	4-1 第1~5回委員会会議録、修正された投稿規定、執筆要領			
	-2 紀要への投稿状況（会議録、投稿および掲載された論文数）	-2 第1~3回紀要編集会議会議録、投稿数 10 件、掲載論文 10 件			
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
	事業目標 4		○		
評価理由	事業目標●：				
(Action) 改善	<p>事業目標 2：大学の特色となる研究については、今後さらに推進するための具体的方策を強化する。今年度抽出された研究カテゴリーについて、次年度は現在進行している調査研究の取り組みに関する学内シンポジウムを開催し、関連する研究テーマの創出を図るための意識付けを行う。また、地域マネジメント研究所との連携をより深めていく。</p> <p>事業計画 3：科学研究費への応募数ならびに採択率の向上のために、応募書類の作成に関する支援をさらに強化する。具体的には、応募件数の目標値の設定、作成した調書のピアレビュー等を実施していく。</p>				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：研究倫理委員会

(Plan) 事業 目標	1. 学園の倫理指針・規則に基づく教員の研究倫理審査の厳正で円滑な運用 2. 看護学部学生研究倫理審査規則に基づく学生の倫理審査の適切な運用	
事業 計画	1-1 教員の研究倫理審査を規則に基づき適切に実施する。 - 2 研究倫理審査を円滑に運用するため、必要に応じて規則等を整備する。 - 3 新たに作成または整備した規則等の運用状況を確認し、適切な研究倫理審査に活用できているか評価する。 2-1 看護学部学生研究倫理審査を規則に基づき適切に実施する。 - 2 看護学部と本委員会が連携しながら看護学部学生研究倫理審査を迅速に行う。 - 3 新たに整備した規則等の運用状況を確認し、適切な看護学部学生倫理審査に活用できているか評価する。	
(Do) 実施	1-1 規則に基づき適切に実施した。 - 2 研究倫理審査の円滑な運用のため、関係規則を整備した。 - 3 委員会における事業活動中間評価及び年度末評価により、運用状況を確認した。 2-1 規則に基づき適切に実施した。 - 2 看護学部と連携しながら看護学部学生研究倫理審査を迅速に実施した。 - 3 委員会における事業活動の中間及び年度末評価により、運用状況を確認した。	
(Check) 点検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 教員の研究倫理審査の適切な実施状況 (研究倫理委員会議事録：倫理審査会発足、倫理審査日程決定、倫理審査申請件数および審査結果、提出された申請書類内容、審査結果記入票、審査結果通知後の手続き) - 2 研究倫理審査を円滑に運用するための規則等の整備状況 (研究倫理審査申請の手続き、研究倫理審査申請チェックリスト、研究倫理審査申請書、審査結果記入票)	1-1 教員の研究倫理審査は適切に実施されている。 (第2・4・9回研究倫理委員会議事録および資料) - 2 「青森中央学院大学研究倫理審査会運営要綱」の一部改正。 改正した「研究倫理審査会運営要綱」の2023年1月からの施行と学内ポータルサイトへの掲示、公開。 (第7・8・9回研究倫理委員会議事録)

	<p>－ 3 新たに作成、整備した規則等の運用状況の確認および適切な研究倫理審査への活用状況 (研究倫理審査申請フローチャート、研究倫理審査申請チェックリスト、研究倫理審査申請書、提出された申請書類内容)</p>	<p>－ 3 事業活動中間評価：昨年度改正審議し、今年度4月に施行した「研究倫理審査申請チェックリスト」および「研究倫理審査申請フローチャート」は適切に運用されている。 (第6回研究倫理委員会議事録および倫理審査実施状況一覧、提出された申請書類) 事業活動年度末評価：第9回研究倫理委員会議事録および倫理審査実施状況一覧</p>			
	<p>2－1 看護学部学生倫理審査の適切な実施状況 (基盤となる規則：看護学部学生研究倫理審査に関する申し合わせ、研究倫理委員会議事録：学生審査会委員の構成・倫理審査日程決定、倫理審査申請件数および審査結果、提出された申請書類内容)</p> <p>－ 2 看護学部と本委員会との連携による看護学部学生研究倫理審査の迅速な実施状況 (学生審査会委員の構成、審査期間、審査結果通知後の手続き)</p> <p>－ 3 新たに整備した規則等の運用状況の確認および適切な看護学部学生倫理審査への活用状況 (新たに整備した規則等：看護学部学生研究倫理審査申請フローチャート、看護学部学生研究倫理審査申請書、提出された申請書類内容)</p>	<p>2－1 看護学部学生倫理審査は適切に実施されている。 (第1・2回研究倫理委員会議事録および資料)</p> <p>－ 2 看護学部学生の研究倫理審査は、看護学部と本委員会との連携により、迅速かつ適切に実施されている。 (第1・2回研究倫理委員会議事録) 事業活動中間評価：第6回研究倫理委員会議事録および倫理審査実施状況一覧</p> <p>－ 3 事業活動中間評価：昨年度改正審議し、今年度4月に施行した「研究倫理審査申請チェックリスト」「研究倫理審査申請フローチャート」「看護学部学生研究倫理審査申請書」は適切に運用されている。 (第1・2回研究倫理委員会議事録および学生倫理審査実施状況一覧)</p>			
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1	○			
	事業目標2		○		

評 価 理 由	事業目標 1：両学部教員及び別途申し合わせを定めている看護学部以外の学生・大学院生等からの申請の可能性を想定し、「研究倫理委員会運営要綱」の一部改訂を行い、対応可能な体制に整備した。
(Action) 改 善	特になし。

令和4年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：地域社会活動委員会

(Plan) 事業 目標	<p>1 本学が有する教育資源の豊かさを、地域社会に積極的にアピールする。</p> <p>2 協定を締結している団体等をはじめとして、各関係機関と連携・協働しながら、公開講座等の更なる充実を図る。</p>	
事業 計画	<p>1-1 本学教員による市町村や各種団体、高校等への出前講座を実施する。</p> <p> - 2 サテライトキャンパス「FRIENDLY WINDOW」を地域活動の場として提供する。</p> <p> - 3 “市町村長リレートーク”や“防災士養成講座”等の講演会及び講座を開催する。</p> <p> - 4 “まちなかキャンパス講座”及び“留学生による語学講座”を実施し、本学が有する教育資源と研究成果を地域に周知、還元する。</p> <p>2-1 地域のゲストスピーカーによる公開講座（「暮らしと地域」）を中心とする講演会・講座を実施する。</p>	
(Do) 実施	<p>1-1 コロナ禍での講座・講演会の開催を控えていた市町村や各種団体・高校等が、感染対策を施した上での開催を再開し始めたこと、及び本学の高大連携事業への積極的な取組により、講座依頼数は目標値を上回った。</p> <p> - 2 3密回避・こまめな換気ができない等により、受講者の多い講座についてはサテライトキャンパスではなく別会場で開催した。また、コロナウイルス感染症の対策を講じながら、地域活動の場として多くの団体がサテライトキャンパスを活用した。</p> <p> - 3 計画された5回の講演会、学習会を開催し総計458名の参加を得ることができ、目標値を上回った。</p> <p> - 4 13回の講座を開催し受講者も予想を上回り、多くの方々から好意的に受け止められた。</p> <p>2-1 予定されていた10回の講座を開催し、予想を上回る延べ2011名の参加者であった。</p>	
(Check) 点検	計画段階の点検項目 ※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	<p>1-1 出前講座の回数及び受講者数：講座数20/受講者数600(実施記録)</p> <p> - 2 地域活動、公開講座の実施回数及び利用者・参加者の数：実施回数8/人数100(実施記録)</p> <p> - 3 講演会、学習会の開催回数及び参加者数：開催回数5/参加者数200(実施記録)</p> <p> - 4 国際交流関連講座、語学講座の実施回数及び受講者数：回数10/受講者数160(実施記録)</p>	<p>1-1 出前講座の回数及び受講者数：講座数23/受講者数1,341(実施記録)</p> <p> - 2 地域活動、公開講座の実施回数及び利用者・参加者の数：実施回数70/人数400(実施記録)</p> <p> - 3 講演会、学習会の開催回数及び参加者数：開催回数5/参加者数458(実施記録)</p> <p> - 4 国際交流関連講座、語学講座の実施回数及び受講者数：回数13/受講者数330(実施記録)</p>

	2-1 講演会・講座の実施回数及び参加者数：実施回数 10/参加者数 1000（実施記録）		2-1 講演会・講座の実施回数及び参加者数：実施回数 10/参加者数 2011（実施記録）		
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1	○			
	事業目標 2		○		
評価理由	事業目標 1：講演会・講座等の開催数及び参加者数が目標値を大幅に上回り、想定以上の成果を達成できたと判断できる。 事業目標 2：講演会・講座の参加者が倍増したことから、目標を達成したものと判断できる。				
(Action) 改善	事業目標 1：公開講座、地域活動の場として本学サテライトキャンパスの利活用に努め、より一層の充実を図る。 事業目標 2：オンライン配信に特化した講座の開講や YouTube チャンネルでの公開等の方向性を検討する。				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：FD 委員会

(Plan) 事業 目標	<p>教育活動の結果である学生の学習成果・授業改善アンケートや様々な研修会等の全学的な取り組みを活かして、教員の教育活動のさらなる改善・向上を図ることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教員の教育力向上を図るための体系的 FD・SD 研修会（全学、学部別、学生）の企画・運営 2 学生と共に魅力ある授業作りのための学期途中・学期末授業改善、学習成果等アンケートの実施と結果の共有 3 授業に関する教員学生相互の理解を深めるための学生自由意見に対する教員コメントの実施と結果の共有
事業 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1-1 教職員合同 SD 研修会の運営と評価：2021 年度研修会テーマの希望調査を基に企画 -2 全学及び学部別 FD 研修会の運営と評価：2021 年度研修会テーマの希望調査を基に企画、グローバル人材育成に関して -3 学生 FD 座談会の運営と評価 -4 FD ネットワークつばさ関連事業への教職員・学生の参加・協力と報告 <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 2-1 学期途中の授業改善アンケートの実施と評価 -2 学期末授業改善アンケートにアクティブラーニングに関する項目の追加 -3 学期末授業改善アンケートの実施と評価 -4 年度末学習成果等アンケートの実施と評価 <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 3-1 授業改善アンケートの学生自由記述意見に対する教員コメント作成依頼、回答率集計、公表 -2 教員コメント様式の見直し
(Do) 実施	<ol style="list-style-type: none"> 1-1 「認証評価について」9月教授会後（経営法学部 7 日、看護学部 14 日）に実施。 「ワークライフバランスを考えた組織づくり」をテーマに 2023 年 3 月 1 日実施。 -2 全学 FD 研修会「アクティブラーニング実践報告とワークショップ」を 8 月 5 日に実施した。 FD 研修アクティブラーニングの Teams を作成、「私のアクティブラーニング」と題し、11 月以降毎月教員が実践している教授法を発表・共有する場を設けた。 全学 FD 研修会「授業における ICT 活用の促進（基礎編）」を 10 月 5 日に実施した。 全学 F D 研修会「授業における ICT 活用の促進（応用編）」を 11 月 6 日に実施した。 経営法学部では、グローバル人材育成に関するアンケートを 6 月 1 日～30 日に実施した。 看護学部では、グローバル人材育成に向けた取り組みに関する進捗状況とワークショップを 7 月 6 日に実施した。 -3 学生 F D 座談会は「学生目線からみた成果（知識の定着）につながるアクティブラーニング」をテーマに 2 月 1 日実施。

	<p>－ 4 FD ネットワークつばさの第 29 回 FD 協議会（6 月 28 日開催）に、委員長がオンライン参加した。 FD ネットワークつばさのリレーエッセイを福土委員が執筆・投稿した。</p>	
	<p>2－ 1 学期途中の授業改善アンケートを前期 5 月 9～13 日、後期 10 月 24～28 日に実施した。 － 2 学期末授業改善アンケートに「教員はアクティブラーニングの教授法を使用しましたか」と「具体的な教授法を選択・記入してください」の項目を追加した。 － 3 学期末授業改善アンケートは、前後期共に授業開始後 10 回目以降から試験終了期間までを実施期間とし、科目担当教員に授業時間あるいは試験時間内でアンケート実施するよう 3 回依頼した。 － 4 年度末学習成果等アンケートを 12 月から 2023 年 1 月にかけて実施した。</p>	
	<p>3－ 1 授業改善アンケートの学生自由記述意見に対する教員コメントの作成を各学期のアンケート公表後に依頼し、前期については公表済み。 － 2 教員コメントの用紙に、学生から誹謗中傷的な意見の有無に関する記載を設けた。</p>	
<p>(Check) 点 検</p>	<p>計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載</p> <p>1－ 1 SD 研修会の実施状況（企画書、委員会議事録、報告書、アンケート結果） － 2 全学 FD 研修会の実施状況（実施要項、委員会議事録、研修会資料、アンケート結果、2022 年度 FD 活動報告書）、各学部 FD 研修会の実施状況（実施要項、委員会議事録、アンケート結果、2022 年度 FD 活動報告書）※教員の研修会参加率は年間延べで 100% － 3 学生 FD 座談会の実施状況（委員会議事録、2022 年度 FD 活動報告書） － 4 FD ネットワークつばさ協議会への参加状況（委員会議事</p>	<p>点検結果</p> <p>1－ 1 第 6 回 FD 委員会議事録（「認証評価について」）、第 9 回 FD 委員会議事録（「ワークライフバランスを考えた組織づくり」） － 2 以下、2022 年度 FD 活動報告書で報告 ① 「アクティブラーニング実践報告とワークショップ」経法 22 名、看護 26 名参加。第 6 回 FD 委員会議事録 ② FD 研修アクティブラーニング Teams 投稿状況 ③ 「授業における ICT 活用の促進（基礎編）」経法 31 名、看護 23 名参加。第 7 回 FD 委員会議事録 ④ 「授業における ICT 活用の促進（応用編）」経法 6 名、看護 12 名参加。第 8 回 FD 委員会議事録 ⑤ 経営法学部グローバル人材育成に関するアンケートは、第 4 回 FD 委員会議事録、アンケート結果（14 名回答） ⑥ 看護学部グローバル人材育成に向けた取り組みに関する進捗状況とワークショップ 26 名参加。第 4 回 FD 委員会議事録 － 3 第 8 回 FD 委員会議事録 － 4 第 4 回 FD 委員会議事録（6 月開催の協議会報告）、2022 年度 FD 活</p>

	録、2022年度FD活動報告書)		動報告書		
	2-1 学期途中の授業改善アンケートの実施状況(委員会議事録)		2-1 前学期は第2回FD委員会議事録(12件)、後学期は第8回FD委員会議事録(5件)		
	-2 学期末授業改善アンケート内容の見直し状況(委員会議事録、見直し後様式)		-2 第1回FD委員会議事録、授業改善アンケート見直し後様式		
	-3 学期末授業改善アンケートの実施状況(委員会議事録、教員への依頼文、アンケート回答率と結果、2022年度FD活動報告書)※回答率5割以上		-3 前学期の実施状況は、第6回FD委員会議事録、アンケート資料、回収率は経法42.8%、看護42.4%		
	-4 学習成果等アンケートの実施状況(委員会議事録、教員への依頼文、アンケート回答率と結果、2022年度FD活動報告書)※回答率5割以上		-4 学習成果等アンケートは現在取集中。学生の能力を測ることはFD委員会の管轄外であり、回収率も低く、活用もしていない状況である。今年度を最後に中止する旨委員会で決め(第8回FD委員会議事録)、部局長・教授会で承認された。		
	3-1 教員コメントの実施状況(委員会議事録、教員への依頼メール、コメント回答率、ポータルサイト掲示板、2022年度FD活動報告書)※回答率5割以上		3-1 前学期の教員コメントの回答率については、第8回FD委員会議事録(教員のフィードバック回答率は経法53%、看護30%、改善要望ありの科目に関する回答率は経法75%、看護55%)		
	-2 教員コメント様式の見直し状況(委員会議事録、見直し後様式)		-2 第1回FD委員会議事録、見直し案資料		
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1	○			
	事業目標2			○	
	事業目標3		○		
評価理由	<p>事業目標1：アクティブラーニングの実践報告とワークショップのアンケート結果、各教員の取り組み状況・実践方法を知ることが参考になったという意見が多く聞かれた。そのため、定期的に取り組みを発信する場として、FD研修「アクティブラーニング」のTeamsを作り、毎月アップしていくこととなった。</p> <p>事業目標2：学期末アンケート期間を、最終回だけではなく、授業の2/3終了した時点から試験期間終了まで延長し、授業内でのアンケート実施を再三教員に依頼しているものの、前学期のアンケート回答率は50%に至らなかった。</p>				

(Action) 改善	事業目標 1 : 研修会後のアンケート結果から、新任教員を対象とした研修会や ICT 活用教育に関する定期的研修会の開催などの希望が聞かれている。新たなテーマだけでなく、希望に沿う内容の研修会を企画・運営していく。 事業目標 2 : 授業改善アンケートについて、教員へ依頼するだけでなく、学生にも Teams 等でアンケートに回答するよう依頼する。また、授業改善アンケート内容の削減、実施する科目数の削減等も検討する。学習成果等アンケートについては、次年度から FD 委員会での実施は中止する。
------------------------------	--

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：教職課程指導委員会

(Plan) 事業 目 標	1 教職課程履修者が、教員となるための基礎的・基本的な学修内容が身につく指導 2 教職課程履修者が、教員採用試験に合格できるような試験対策の構築	
事業 計 画	1-1 本学教職課程関係教職員の組織的活動を推進する。 - 2 教育関係機関との連携を図る。 2-1 経営法学部教職課程科目に基づく適時適切な指導を行う。 - 2 教員と学生の信頼関係の構築と個に応じた指導を行う。 - 3 教育実習の円滑かつ継続的な指導となるよう、実習校との連携を図る。	
(Do) 実 施	1-1 各自の役割分担を確認しながら実施した。 - 2 研究発表会や研修会に参加し協力できた。 2-1 シラバス及び教職関連事業に基づき指導を行った。 - 2 学生への声かけに努め、状況に応じた個への指導を行った。 - 3 当該学生及び担当教員が実習校との連絡を密に行った。	
(Check) 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 関係教職員の組織的活動(委員会での分掌確認、チェック)	1-1 第1～10回までの教職課程指導委員会の資料及び議事録
	- 2 教育関係機関との連携(研究発表会、研修会への参加)	- 2 「あおり教育研究発表会2022」資料、「新スクールサポートスタッフ」活動の提案資料
	2-1 『学生便覧』に基づく指導(6教職課程、別表2の確認、履修学生の成績確認、指導)	2-1 教職課程履修希望学生へのガイダンス、成績及び単位取得状況の確認(教職員からの聞き取り)
	- 2 教員と学生の信頼関係の構築(学修に対する要望の聞き取り、学生の立場を踏まえた相談活動)	- 2 学修及び生活全般に対する相談(教職履修学生及び教職員からの聞き取り)
	- 3 中学校及び高等学校での教育実習の実施(実習校との綿密な打ち合わせ・確認)	- 3 教職課程指導委員会資料、教育実習ノート、教育実習成績報告書

評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2			○	
	事業目標 3				
評 価 理 由	事業目標●： 公立学校教員採用①次試験の一般教養では、対策方法等を指導したが、合格レベルの基準まで達することができなかった。また、教員採用試験を見受験の者もいるため、次年度は受験人数が増えるよう指導を強めたい。				
(Action) 改 善	事業目標●： 公立学校教員採用一次試験通過者と私立学校志望教員の学生数の増加を図る。				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：公務員試験対策委員会

(Plan) 事業 目 標	本学主催の公務員試験対策講座を効率的かつ効果的に実施することで受講生の公務員試験合格率の向上を目指す。 1 公務員講座受講生の合格率の向上 2 学内公務員講座の運営 3 直前集中講座および SPI 対策講座の実施 4 購入図書の利用促進およびオンデマンド講義の活用等、合格率向上に資する項目の実施	
事業 計 画	1 公務員講座 3 年次受講生の合格率 3 割を達成する。 2 スケジュール等に則り、公務員講座を適切に運営する。 3 スケジュール等に則り、直前集中講座および SPI 対策講座を実施する。 4-1 受講生に対して購入図書の利用を促進していく。 -2 オンデマンド講義をアーカイブ化して、受講生の学習に資するよう提供していく。	
(Do) 実 施	1 公務員講座受講生 28 名のうち、行政職 4 名、公安職 7 名の計 11 名が最終合格し、講座受講生の最終合格率は約 39%だった。 2 2022 年公務員講座年間スケジュール等に基づき、学内公務員講座を実施した。 3 2022 年公務員講座年間スケジュール等に基づき、直前集中講座および SPI 対策講座を実施した。 4-1 講座受講生に購入図書の利用を図るとともに、公務員試験対策委員会所属教員による試験対策の勉強会等において、購入図書を活用した。 -2 学内公務員講座の講義を必要に応じてオンデマンド配信し、受講生の学習の資とした。	
(Check) 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1 公務員講座受講生の受験状況（公務員講座受講生受験状況）	1 令和 4 年度公務員講座受講生受験状況
	2 公務員講座の運営状況 （公務員講座時間割、公務員講座受講者出席簿）	2 2022 年度青森中央学院大学公務員講座時間割（前期）・（後期） 2022 年度公務員講座受講者出席簿
	3 直前集中講座および SPI 対策講座の実施状況 （直前集中講座出席状況、SPI 対策講座出席状況）	3 2022 年直前集中講座出席状況 2022 年 SPI 対策講座出席状況
	4-1 購入図書の利用促進（図書利用状況表） -2 オンデマンド講義のアーカイブ化（講義動画の再利用について）	4-1 令和 4 年度図書利用状況表 -2 数的処理の講義動画の再公開について

評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
	事業目標 4			○	
評 価 理 由	事業目標 4-1：購入図書の利用促進について、公務員試験対策委員会担当教員が実施する各種講義・勉強会等において購入図書を充分活用したものの、受講生自身が直接図書を利用する機会は必ずしも多くはなかった。				
(Action) 改 善	事業目標 4-1：次年度では、購入する図書のラインナップを見直し、より公務員試験対策に資するような図書を購入し、公務員講座受講生に供することによって、受講生の図書利用を喚起していくことにする。				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：カリキュラム検討委員会（経営法学部）

(Plan) 事業 目 標	1. 社会情勢の変化に対応できる能力の育成を可能にする教育課程の編成を旨とするカリキュラムの見直しを継続する。 2. グローバル人材養成プログラムの内容を精査して見直すとともに、外部指導者との接触の機会を増加する。 3. 正規授業外の特別授業とディプロマ・サプリメント等による学生の付加価値の向上を目指す。 4. 高大接続事業の一環として特定資格・検定合格者の特待制度における教育プログラムを策定する。	
事業 計 画	1-1 国際貢献と地域貢献の理解できるような履修モデルを構築する。 -2 履修モデルを見直し履修要件を精査して、修了者を増やす。 2-1 グローバル科目の2年生向けのプログラムの実施と共に、3年向けのプログラムを策定する。 3-1 正規授業と授業外の特別授業を組み合わせた本学独自のプログラムを策定する。 -2 「ディプロマ・サプリメント（学位証書補足資料）」を策定し、学習成果の可視化を図る。（部活動実績を含む） 4-1 検定合格者（特待）を中心に受講者（参加者）の能力開発に必要な教育プログラムを準備する。	
(Do) 実 施	1-1 科目群の「経営法律総合」からグローバル関係の科目を新たに「地域探求・グローバル人材養成」に移した。 履修モデルと特別の人材養成プログラムを明確に区分することにした。 2-1 グローバル科目の中に異文化理解（1年ゼミ）・異文化コミュニケーション（グローバルキャリアプラ）に組み入れた。 3年には外国人ビジネスマンとの直接交流の機会を設定して、異文化ビジネスの要素も取り入れる。 3-1 特別人材養成プログラムでは学生に正規授業以外の特別授業の受講を義務付けている。 -2 検定合格者（一定レベル到達者）に対する特待制度を設けた。 -3 ディプロマ・サプリメントを策定している。	
(Check) 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 履修モデルの策定状況（教授会資料＝委員会報告） -2 履修状況（教授会資料＝委員会報告）	1-1 履修モデルは存置して別途特別人材の養成プログラムを設置することにした。
	2-1 グローバル科目の実施、策定状況（教授会資料＝委員会報告）	2-1 グローバル科目の充実を図り、異文化理解等にも力を入れているものとしている。
	3-1 データサイエンス関係、簿記関係、グローバル関係その他のプログラムの策定状況（教授会資料＝グローバル委員会、高大連携委員会を含めた委員会報告）	3-1 データサイエンス関係の科目増設、グローバル関係の科目増設を行う。

	4-1 簿記検定1級、トイック800点等を目指せるカリキュラムの策定状況（教授会資料＝高大連携委員会の委員会報告）		2年生に関しては目標に近づきある。		
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1		○		
	事業目標2		○		
	事業目標3		○		
評 価 理 由	事業目標1：グローバル人材養成プログラムの科目の充実、簿記検定関係科目の科目充実を図った。 2. ディプロマサプリメント・カリキュラムマップの策定を行った 3. 国際貢献と地域貢献に対応する科目群を設定した。				
(Action) 改 善	事業目標1：国際貢献・地域貢献に資する科目の見直し、補充等を検討する。 事業目標2：3つのポリシーの改定に伴うカリキュラムの改定を行う。 事業目標3：データサイエンス関係のレベルアップを可能にするカリキュラムを検討する。				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：グローバル人材養成プログラム推進委員会

(Plan) 事業 目 標	1. グローバル人材を志向する学生の増加を目指す。 2. 養成すべき能力（語学力・データサイエンス能力・コミュニケーション能力）の目標ラインを設定する。 3. 各科目担当者間のコミュニケーションによるきめ細かい現状把握に努める。 4. 3年次に予定される中長期海外留学・インターンシップの実施体制を確立する。	
事業 計 画	1-1 TOEIC の点数の高い学生を特待で採用することにより、素質のある学生を増やす。 -2 グローバル特講やグローバルキャリアプラにおいて異文化に触れる機会を設定する。 2-1 各分野ごとに目標ラインを設定して、各自がどのレベルまで達したかを把握できる方法を検討する。 3-1 担当者会議の回数を増やし、現状を総合的に把握して、問題の改善に努める。 4-1 中長期留学・インターンシップの具体的な実施スケジュールの確定を図る。	
(Do) 実 施	1-1 取得資格特待制度の新設、異文化理解・コミュニケーション等を授業内容に組み込む 2-1 学期末に TOEIC 試験を実施。年度初めの点数と比較することで、各自の伸び幅を確認した -2 特に特講の授業において海外のビジネスマンとの接点を持つことを目的とした遠隔接続を複数回、各学年で行った 3-1 関係者集めての担当者会議および個別の聞き取りの機会を設けた 4-1 次年度の参加者を決定し、受け入れ先等の検討を行う	
(Check) 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 参加者の入学時の TOEIC の成績（教授会資料＝学年末の委員会報告）	1-1 5月の教授会資料
	-2 グローバル科目の実施状況（教授会資料＝委員会報告）	1-2 7月の教授会資料
	2-1 各分野の目標ラインと達成状況（教授会資料＝委員会報告）	2-1 7月の教授会資料 3月の教授会資料
	3-1 担当者会議の開催状況（教授会資料＝委員会報告）	3-1 7月の教授会資料 3月の教授会資料
	4-1 中長期留学・インターンシップの計画策定状況（教授会資料＝委員会報告）	4-1 3月の教授会資料

評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
	事業目標 4			○	
評 価 理 由	<p>事業目標 1：グローバル学生の増加に向けて通常のパンフのほか、リーフレットを作成して特別に広報する。</p> <p>事業目標 2：プログラム参加者の多くが、4月時点の点数から大きく点数を伸ばしている。</p> <p>事業目標 4：今年度の2年生を来年度、海外インターンに参加させるが、今年度はインターン参加者の決定が12月になってしまったことで、必要な準備が遅れてしまった。</p>				
(Action) 改 善	<p>事業目標 1：グローバル科目の中で数値化しにくいものの目標ライン設定を検討する。</p> <p>事業目標 4：中長期の海外実習の準備・実施・成果について指導を徹底する。</p>				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：実習委員会

(Plan) 事業 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習全体の計画および調整 2. 学生の安全と健康管理の支援 3. 学生の実践能力向上に向けた支援 4. 教員の実習指導力の向上に向けた支援
事業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1-1 各領域の年間実習計画および実習指導体制の調整をする。 <ol style="list-style-type: none"> 2 大学と実習施設との協議による実習の調整を行う。 3 臨地実習に伴う課題の抽出とリスクへの対応をする。 4 看護学実習協議会の企画・運営を実施する。 2-1 学生の安全および健康管理（感染症等含む）の啓発と予防をする。 <ol style="list-style-type: none"> 2 臨地実習における対象者に関する事故発生の予防、発生事例の分析・指導をする。 3-1 看護技術経験等に関する自己管理と課題の抽出をする。 <ol style="list-style-type: none"> 2 実習における学びの記録の運用をする。 3 臨地実習環境の整備、物品の管理を実施する。 4-1 実習指導力向上を目指した研修会の企画・運営を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 2 非常勤教員へ学習機会を提供する。
(Do) 実 施	<ol style="list-style-type: none"> 1-1 適切に各領域の年間実習計画および実習指導体制の調整を行った。 <ol style="list-style-type: none"> 2 Covid19 感染状況に応じて大学と実習施設との連携、協議により前後期の実習を行えた。また実習の調整を適切に行った。 3 実習の事前調査等を活用するなど臨地実習に伴うリスクへの対応をした。 4 看護学実習協議会の企画し、2023年2月に on-line 開催の準備中である。 2-1 関係部署、施設と連携し学生の安全および健康管理（感染症等含む）の啓発と予防を行った。 <ol style="list-style-type: none"> 2 臨地実習における対象者への事故発生はなかった。ヒヤリハット等の報告について指導、分析を行った。 3-1 実習施設の Covid19 の感染状況に応じて一部変更しながらも実習が行えた。看護技術経験は、実施機会が少ない診療の補助に関する項目の頻度が低かったものの、多くの項目で実施できていた。 <ol style="list-style-type: none"> 2 「実習での学びの経験録」の活用を開始した。全12項目中11項目が80%以上の達成度であった。しかし社会資源の活用の項目は40%以下であった。社会資源の項目について見直しをした。

	3 臨地実習環境の整備、物品の管理を行い、確認した。	
	4-1 実習指導力向上を目指した研修会の企画・運営を8月4日、12月14日に実施した。事例検討、およびこれまでの10事例の検討会から、実習において対面での直接の指導場面にどのような学びを得て活用しているか意見交換した。	
	2 教員研修会、授業への参加など非常勤教員へ学習機会を提供した。	
(Check)	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
点 検	1-1 新・旧カリキュラムの年間実習計画、実習指導體制の策定（委員会議事録、実習計画表、実習配置表、教員の実習指導體制表、看護学実習要項、各領域の実習要項、別科助産専攻実習要項等）	1-1 第1回～9回実習委員会議事録および2023年度の実習計画に関する資料一式
	-2 大学と実習施設との円滑な実習の運営状況（委員会議事録、実習施設との実習調整記録、実習施設との臨地実習委託契約書、臨地実習協力依頼書、実習施設からの公文書等）	-2. 第1回～9回実習委員会議事録、2023年度実習施設との調整記録、実習要項等
	-3 臨地実習の課題とリスクへの対応の検討状況（委員会議事録、実習要項、実習に関する事前調査記録、Willの適応等）	-3. 第1回～第9回実習委員会議事録、3年次生の実習事前調査、Will申請書類等
-4 看護学実習協議会の企画と運営状況（委員会議事録、実習協議会実施要項（2023年2月実施予定）、実習施設への公文書等、実習協議会資料一式、アンケート集計結果等）	-4. 第5回～第9回実習委員会議事録、2022年度実習協議会に関する資料一式	
2-1 学生の安全管理、健康管理（感染症予防含）の実施状況（委員会議事録、実習要項、健康観察記録、各種ワクチン接種記録、Willの適応等）	2-1. 第1回～第9回実習委員会議事録、Covid-19等感染症発生時対応ルート作成、学生の健康観察記録の確認等	
-2 臨地実習における対象者への事故防止、発生事例の分析・指導状況（委員会議事録、実習要項、事故等報告書、Will適応）	-2. 第3回、4回、6回、7回、8回実習委員会議事録、ヒヤリハット等報告書	
3-1 看護技術経験等の自己管理と課題の検討状況（委員会議事録、看護技術到経験録および集計結果）	3-1. 第5回、第9回実習委員会議事録および看護技術経験録の集計表	
-2 実習における学びの記録の活用状況（委員会議事録、「実習での学びの経験録」の記載状況、集計結果）	-2. 第5回、第9回実習委員会議事録および「実習での学びの経験録」の集計表	
-3 実習環境の整備、物品の管理の実施状況（委員会議事録、電子書籍の更新、購入物品等の点検管理簿、ロッカーの賃借願等）	-3. 第1回～第9回実習委員会議事録および物品に関する管理簿等	

	4-1 実習指導教員の研修会の企画、実施状況（年2回以上） （委員会議事録、学習会実施要項、アンケート集計結果、事例検討会の整理等） -2 非常勤教員の研修会参加状況（アンケート結果等）		4-1. 第4回、5回、7回、8回、9回実習委員会議事録および8月、12月の研修会アンケート結果等資料、2018年度からの事例のまとめ -2 第4回～9回実習委員会議事録、研修会出欠状況、協議会に関する資料		
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
	事業目標 4		○		
評 価 理 由					
(Action) 改 善	特になし				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：国家試験対策委員会

(Plan) 事業 目 標	看護師・保健師国家試験合格率 100%をめざす。	
事業 計 画	<p>1-1 模擬試験・国家試験対策講座の日程を決め、講師との打ち合わせ、会場の確保、運営を行う。</p> <p>—2 国家試験勉強を効果的に継続できるよう学生全体へ国家試験対策の説明や個別面談を行い支援する。</p> <p>—3 模試で偏差値 40 未満の学生に対して重点的な国家試験対策を実施する。</p> <p>2-1 1～3 年生のアドバイザーに対して低学年用模擬試験の情報提供を行う。</p> <p>—2 卒業生（不合格者）に対して模擬試験に関する情報提供を行う。</p> <p>3-1</p>	
(Do) 実 施	<p>1-1 模試教室の確保や講師の都合により変更を強いられたが、計画に基づいて模試と対策講座を滞りなく実施した。</p> <p>—2 学生に国家試験対策について説明した。成績の振るわない学生には個別面談を行って支援した。</p> <p>—3 対象学生を模試で必修 36 点未満もしくは偏差値 42 未満の学生として重点的な対策を実施した。 特に成績の振るわない学生、成績が下位から中位の境界域にいる学生を対象に教員が個別に学習支援を行った。</p> <p>2-1 1～3 年生のアドバイザー教員に情報提供を行った。</p> <p>—2 卒業生（不合格者）に模擬試験受験を支援した。</p> <p>3-1</p>	
(Check) 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	<p>1-1 模擬試験・国家試験対策講座の運営状況（委員会議事録）</p> <p>—2 国家試験対策の説明と個別面談の実施状況。全体および個人成績（模擬試験結果、面談記録、委員会議事録）</p> <p>—3 偏差値 40 未満の学生への国家試験対策内容と成績の推移（模擬試験結果、委員会議事録）</p>	<p>1-1 第 1～12 回委員会議事録</p> <p>—2 第 1～12 回委員会議事録、模擬試験結果</p> <p>—3 第 1～12 回委員会議事録、模擬試験結果</p>
	<p>2-1 アドバイザーへの情報提供の状況（委員会議事録）</p> <p>—2 卒業生の模試実施状況と成績（模擬試験結果、委員会議事録）</p>	<p>2-1 第 1～12 回委員会議事録、情報提供に基づく模擬試験結果</p> <p>—2 第 1～12 回委員会議事録、模擬試験結果</p>

	3 - 1			3 - 1	
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3				
評 価 理 由	事業目標：4年次前学期は臨地実習のため学生の意識づけが難しかったが、国家試験合格に向けた対策学習を進めることができた。 看護師・保健師国家試験の合格者数と合格率は合格発表（3月24日）以降に追記する。				
(Action) 改 善	事業目標：模試や対策講座の教室確保が難しく特別対策学習は月曜日の午前中のみの実施となった状況から、学務課と連携して学習環境を改善する工夫が必要である。				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：看護学部カリキュラム検討委員会

(Plan) 事業 目 標	1. 2022 年度施行の新カリキュラムの点検・評価を行う。 2. 内部質保証（学習成果の可視化）に向けたディプロマポリシーの達成度評価のための評価項目を作成する。 3. 内部質保証（学習成果の可視化）に向けたカリキュラムに対する評価を分析する。	
事業 計 画	1－1 新カリキュラムの点検・評価 2－1 ディプロマポリシーの達成度評価のための評価項目の作成 3－1 学習成果の可視化のために GPS アカデミックの実施（1・3 年次）と学生へのフィードバック（中期計画） －2 実習目標到達度の評価方法の再検討（中期計画） －3 カリキュラム総括評価、学習成果アンケート等の分析（中期計画）	
(Do) 実 施	1－1 2022 年度施行の新カリキュラムの実施状況を点検・評価した。 2－1 ディプロマポリシーを見直し、達成度評価のための評価項目を作成した。 3－1 GPS アカデミックを、1 年次学生には 4・5 月に、3 年次学生には 12・1 月に実施した。結果は、各クラスアドバイザーが学生へのフィードバックに活用した。 －2 実習委員会で実施の「実習での学びの経験録」による評価で読み替えとする。 －3 2021 年度卒業生（5 期生）についてカリキュラムの総括評価を行った。学修成果アンケートについては FD 委員会が各学年を対象にポータルサイトにて入力締め切りを 1 月末として実施した。	
(Check) 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1－1 新カリキュラムの実施状況（学科会議記録、令和 4 年度学事暦、時間割）	1－1 令和 4 年度学事暦。令和 4 年度前・後学期時間割

	2-1 ディプロマポリシーの達成度評価のための評価項目の策定状況(学科会議記録、作成した評価項目)	2-1 第6回学科会議議事録(2022.9.4)、第8回教学マネジメント会議(2022.11.29)、第9回教授会議事録(2022.12.14)、 「作成した評価項目」			
	3-1 GPS アカデミックの実施状況(学科会議記録、委員会記録) -2 実習目標到達度の評価方法の検討状況(委員会記録) -3 各種カリキュラム評価の分析(学科会議記録、委員会記録)	3-1 第9回学科会議記録(2022.12.14)、GPS アカデミック実施結果の報告会(オンライン、1年生 2022.7.1、3年生 2023.2.2) -2 第10回看護学科会議議事録(2023.1.18) -3 第1回学務委員会議事録、第2回学科会議議事録(2022.5.18)			
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1		○		
	事業目標2		○		
	事業目標3			○	
評価理由	事業目標3: 今年度は、1年次学生は新カリキュラム、2~4年次学生は旧カリキュラムによる教育である。今年度もコロナ禍の中で、特に臨地実習では対応を余儀なくされたが、教育課程表通り実施した。学修成果アンケート結果の分析は、これから年度内に行う。				
(Action) 改善	事業目標3: これから各学年の学修成果アンケートを分析して改善点を明らかにしたい。				

事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：高大連携委員会

(Plan) 事業 目標	1. 高大連携事業の継続と充実、ならびに新たな高大連携プログラムの開発。 2. 高大接続の推進（中期経営計画と関連）。 3. 大学の教育資源を高校側が有効に活用できるよう、学内関係部署と連携強化する。 4. 高大連携活動を学生募集に活用するため、入試広報委員会と情報共有を行う（中期経営計画と関連）。	
事業 計画	1-1 高大連携協定校との連携事業について ・青森西高校と新規連携事業を検討する。 ・青森中央高校、青森商業高校、大湊高校について、連携事業の継続と充実を図る。 -2 高大連携協定校以外との連携事業について ・新たな協定校開拓も含めて、中南地区、西北五地区の高校との連携に取り組んでいく。その他、各高校からのニーズに応じた連携を実施する。 -3 大学講義（一部）のオンライン配信や、「SDG s」、「地域課題の解決」等をテーマにした、高大連携プログラムの開発を急ぐ。	
	2-1 高大接続および入学者の質向上・入学後の学習意欲向上を目的とする、取得資格特待生制度・単位認定制度・入学後の各種講座・資格取得奨励制度の整備と周知。 -2 上記制度の周知を徹底するため、必要に応じて高校訪問を拡大し、志願者の質の向上と数の増加を図る。	
	3-1 大学の教育資源が高校の学修内容に効果的に活用されるよう、学内関係部署との情報共有を進める。	
	4-1 本学への進学に際してメリットとなる情報を高校に提供し、高大連携活動から得た入試広報活動に有益な情報について入試広報委員会と共有する（中期経営計画と関連）。	
(Do) 実施	1-1 青森西高校との新規事業については、高校側のニーズを掘り起こすことができず、実施に至らなかった。 -2 新たに五所川原商業高校・木造高校との連携事業が始まり、高大連携協定の締結に至った。また、青森南高校との新事業が開始され、次年度も継続予定である。 -3 大学講義を高校に配信・単位認定に向けて、今年度は講義を聴講・録画し内容の把握を行った。	
	2-1 } 取得資格特待生制度について、高校訪問等による周知を行った。結果的に、簿記1名・英語1名（1/18現在）の申請となった。 -2 }	
	3-1 連携事業実施にあたり、国際交流課・学習支援課との情報共有および共同実施した。	
(Check)	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 協定校および協定校以外との連携事業の実施状況。（高大連	1-1 高大連携推進会議議事録（令和4年度高大連携推進会議議事要録）

点 検	携推進会議議事録)				
	- 2 協定校以外との連携事業の実施状況。協定校以外に向けた高校訪問、ニーズ調査の実施状況。(高大連携推進会議議事録) - 3 大学講義(一部)の配信に向けた取り組みや、高大連携プログラムの検討と開発実施状況。(高大連携推進会議議事録)				
	2-1 上記制度等の設計・整備の状況。(高大連携委員会議事録、高大推進会議議事録)		2-1 高大連携委員会議事録(第2回、第4回、第5回、第8回委員会議事要録)		
	- 2 実業系の高校を中心に高校訪問を拡大し、上記制度の周知の状況。(高校訪問記録)		- 2 高校訪問記録(第5回経営法・看護教授会資料)		
3-1 学内関係部署との情報共有の状況。(情報共有に関する打ち合わせに関する記録)		3-1 事業実施にあたり、国際交流課・学習支援課との事前打ち合わせを行った。(10/24国際交流課との打ち合わせ内容記録)			
4-1 高校との打ち合わせにおいて、進学傾向のヒアリングおよび卒業生の情報を共有および高校から得た情報を入試広報委員会との共有状況。(入試広報委員会との情報共有記録)		4-1 取得資格特待生制度の周知に関連して、国公立大学志望生徒の進路形成過程および傾向について得た情報等を共有した。(第4回経営法入試広報委員会議事要録)			
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1	○			
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
	事業目標 4		○		
評 価 理 由	事業目標 1： 青森西高校との新規事業は実施に至らなかった。連携推進会議を行ったが、高校における探究学習の取り組みがあまり進んでいない様子で、高大連携に対するニーズがあまり感じられなかった。そのため、協定外でも探究学習に積極的な高校との事業を進める方向にシフトした。その結果、新たに協定校を2校増やすことにつながった。高校側はこれまで実施した事業や他校との実施例を参考に協定締結へと動いた。協定校のニーズに沿ったこれまでの本学の連携事業実施が評価されたものとする。				
(Action) 改善	事業目標 1： 大学講義の配信と受講生徒の単位認定について。経営法学部「現代社会の諸相」について、講義の難易度や各講師の講義スタイルを確認し、高校生のオンライン受講が可能か検討を行った。今後は高校側のニーズをさらに把握した上で、どのような事業として提案するか検討することとした。				